

令和6年度
東大和市・東村山市

地域の戦争・平和学習 及び 広島派遣事業 報告書



令和6年12月
東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

東大和市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 委員長

東大和市長 和地 仁美



令和6年度は、「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」と同時期に「パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催されました。しかし、平和の祭典であるはずのオリンピックやパラリンピックが開催している間も、オリンピック休戦は無視され、世界の一部の地域で紛争が続いていました。また、連日、ウクライナやパレスチナの紛争に関する報道が続き、戦闘状態の続く状況が日常化しており、とても胸の痛む思いでした。

その一方で、日本国内では、先の大戦から79年目を迎え、当時の出来事を語ることのできる方は、残念ながら減少しており、時が過ぎることにより、戦争の記憶が風化してしまう危機感が全国的に広がっております。

こうした状況の中で、東村山市と連携して実施しております小・中学生を対象とした本事業は、戦争の悲惨さと命の尊さを未来に繋いでいく取組として益々重要なものになると感じております。

今年度は、両市合わせて小学生9名、中学生10名が参加し、身近な地域の戦禍や広島市における原爆投下の惨状を肌で感じ、平和学習を実施しました。

東村山市におきましては、被爆した長崎市立山里小学校の校舎の一部を設置した「被爆石モニュメント」を見学し、その後、東村山ふるさと歴史館では、南秋津に墜落して死亡したB29の乗組員を追悼して建立した「平和観音」などのお話を聞きました。

東大和市におきましては、戦災建造物として市の文化財に指定されております「旧日立航空機株式会社変電所」を見学し、昭和20年当時の空襲の痕から、戦争の脅威を間近に感じたことと思います。

そして、8月には世界で最初に原子爆弾が投下された広島市を訪問しました。実際に被爆された切明千枝子さんの講話は、当時の情景や臨場感とともに、戦争の悲惨さが、深く子どもたちの心に刻まれ、平和の大切さを改めて感じたことでしょう。

広島平和記念資料館では、被爆者の惨状を示す写真や資料、遺品などを目の当たりにし、原爆の恐ろしさを垣間見る思いだったと推察します。

また、8月6日に執り行われた平和記念式典にも参列し、世界中から訪れた来賓をはじめ、多くの方々とともに平和への祈りを捧げました。

本事業に参加された小・中学生が、過去の戦争の記憶や犠牲となった方々への想いを決して忘れることなく、悲惨な戦争を二度と繰り返してはならないことをさらに次の世代に伝え続けていただくよう願っております。

東大和市におきましては、恒久平和の実現と核兵器の廃絶を願う「平和都市宣言」を平成2年に行い、平和を愛する人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の実現に寄与することを誓いました。さらに、東京都多摩地域の26市の市長が一致団結し、「平和首長会議東京都多摩地域平和ネットワーク」を結成し、多摩地域全体で平和文化の振興の向上を図っていききたいと考えております。

結びにあたりまして、本事業にご参加いただきました小・中学生及びその保護者の皆様、また、事業の実施に向けてご協力いただきました多くの皆様に心から御礼を申し上げます。

令和6年12月

東村山市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 副委員長

東村山市長 渡部 尚



人類史上最初の原子爆弾が広島と長崎に投下され、まちを一瞬にして破壊し、多くの人々の尊い命を奪った日から、今年で79年が経過しました。辛うじて生き延びた人々も、目に見えない放射線の障害に苦しみ、心身に負った深い傷は、今もなお、決して消えることはありません。

世界で唯一、核兵器による惨禍を体験した私たちは、核兵器の恐ろしさと戦争の悲惨さ、そして平和の大切さを決して忘れることなく後世へ伝えていかなくてはなりません。

東村山市においては、昭和39年に「平和都市宣言」を行い、昭和62年には「核兵器廃絶平和都市宣言」を行い、恒久平和の実現に向けて、さまざまな取り組みを重ねてまいりました。その取り組みの一つとして、今年も、東大和市と合同で市内の小・中学生を対象に「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を実施し、両市あわせて19人の小・中学生に参加していただきました。

小・中学生たちは、自分たちが住む地域における戦争の歴史等を学び、また実際に広島を訪問し、平和記念式典の参列や平和記念資料館の見学等を行い、平和への理解を深めてきました。

ロシアによるウクライナ侵攻は、2年以上戦闘状態が続いており、パレスチナ・イスラエル戦争の長期化により多くの犠牲者が出ています。核保有国による核使用の可能性が懸念されるなど緊張感

が高まりつつあり、私たちを取り巻く世界情勢はかつてないほど不安定な状況にあります。しかし、そのような時こそ核廃絶に向けて、各国は核抑止論に捉われない具体策を練る必要があります、そして、私たちは、二度と戦争を起こしてはならないこと、平和を守っていくことの重要性を、次世代を担う子どもたちに伝えていく責務があります。

昨年結成された、多摩26市による平和首長会議 東京都多摩地域平和ネットワークでは、本年1月に平和宣言を発出し、その中で「平和文化の振興」に向けて東京都多摩地域共同で取り組むことを宣言いたしました。一自治体の力は世界と比較すると脆弱かもしれませんが、26市が連携して多摩地域における平和の課題に対して取り組み、そして、そうした取り組みの積み重ねが、いずれ世界を動かす大きな一歩になると信じております。

次世代を担う小・中学生たちが本事業を通じて何を学び、平和についてどのように感じ、受け止めたのか、ぜひこの報告書をご覧ください、一緒に平和について考える機会にしていいただければ幸いです。

結びに、本事業にご参加いただきました小・中学生及び保護者の皆様、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

令和6年12月



次

1	実施概要・日程	4
2	参加者名簿	5
3	地域の戦争・平和学習会	6
4	広島派遣	8
5	報告会	13
6	参加者感想文	
	Aグループ	17
	Bグループ	22
	Cグループ	27
	Dグループ	31
7	参加者アンケート	36
8	資料	
	東大和市平和都市宣言・	
	東村山市核兵器廃絶平和都市宣言	42

事業の趣旨・目的

東大和市・東村山市の小・中学生が、自分たちが住んでいる身近な地域でさえも戦争の脅威にさらされていたことを学習するとともに、世界で初めて核兵器が使われた広島市の惨状の記録と記憶を実際に見聞することで、戦争の悲惨さや命の尊さについて考え、平和意識の高揚を図ります。

実施経過

7月4日(木) 東大和市 7月5日(金) 東村山市	事業全体の事前説明会
7月26日(金)	地域の戦争・平和学習会(東村山市・東大和市)
8月4日(日)～6日(火) 2泊3日	広島派遣(広島市)
8月9日(金)	報告会準備(東村山市)
8月17日(土)	報告会(東大和市「平和市民のつどい」)
8月25日(日)	報告会(東村山市「平和のつどい」)

広島派遣日程

日次	月日(曜)	行 程	宿 泊 地
1	8/4(日)	●集合時間 東大和市駅 8時30分 東村山駅 8時40分 東大和市駅 10:55 のぞみ67号 14:42 広島駅 15:10 TKP ガーデンシティ PREMIUM 東村山駅 18:00 夕食 19:00 ホテル 【昼食：車中にてお弁当】 広島被爆者体験講話聴講・グループディスカッション	EN HOTEL Hiroshima
2	8/5(月)	9:00 ホテル 9:15 袋町小学校平和資料館 爆心地 10:00 原爆ドーム 原爆の子の像 (朝食) 平和資料館見学(記録映像の鑑賞) 10:40 平和の灯 11:00 本川小学校平和資料館 12:00 昼食 13:40 広島平和記念資料館 16:00 TKP 広島本通駅前カンファレンスセンター (ピースクリエイターになろう) 18:00 夕食 19:15 ホテル	   
3	8/6(火)	7:00 ホテル 7:30 広島平和記念公園 9:00 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 10:00 原爆ドーム前 12:18 広島駅 (朝食) 式典 8:00～8:50 式典に参加し、原爆死没者に哀悼の意を表し、恒久平和の実現を祈りました。 のぞみ24号 16:15 東京駅 【昼食：車中にて折免滋くん弁当】 ●到着時間 東大和市駅 18時00分頃 東村山駅 17時55分頃	路面電車

2

参加者名簿

◆ 市も学年も混合の4つのグループを編成し学習しました。

参加者: 東大和市 10人 (中学生4人 小学生6人)

東村山市 9人 (中学生6人 小学生3人)

報告会: A・Bグループ 8月17日(土) 東大和市「平和市民のつどい」

C・Dグループ 8月25日(日) 東村山市「平和のつどい」

グループ	名 前	学 校	学 年
A	さい とう かなで 齋 藤 奏	東村山市立東村山第五中学校	2年
	ふじ もと み う 藤 本 美 羽	東村山市立東村山第六中学校	1年
	なか の み れ な 中 野 未 玲 那	東大和市立第七小学校	5年
	ひら の さ く ら 平 野 咲 夢	東大和市立第五小学校	5年
	なか ざわ み ゆ 中 澤 美 結	東村山市立秋津小学校	5年
B	おお つか み お 大 塚 海 緒	東大和市立第一中学校	2年
	なが まつ もみじ 永 松 栞	東村山市立東村山第二中学校	2年
	なか ざわ ゆう と 中 澤 優 斗	法政大学第二中・高等学校	1年
	くま ざわ ゆう 熊 澤 優	東村山市立東萩山小学校	6年
	しら い そ の 白 井 奏 音	東大和市立第八小学校	5年
C	なが い はる ふみ 永 井 晴 史	東村山市立東村山第三中学校	2年
	お ざ ま み う 小 座 間 雅 梅	東大和市立第一中学校	2年
	せき ひ か り 関 白 花 梨	東大和市立第四小学校	5年
	さ とう むぎ 佐 藤 麦	東大和市立第十小学校	5年
D	ふる かわ ゆき か 古 川 幸 佳	東村山市立東村山第四中学校	2年
	かわ さわ れい 唐 沢 怜	東大和市立第四中学校	1年
	はま の のぞみ 濱 野 希	東大和市立第一中学校	1年
	なが い あつ や 永 井 敦 也	東村山市立萩山小学校	6年
	はら だ り お 原 田 璃 央	東大和市立第九小学校	5年

3

地域の戦争・平和学習会

- 小・中学生たちは、東大和市と東村山市の施設を見学し、自分たちが住んでいる身近な地域でも戦争の被害があったことを学びました。

スケジュール

7月26日（金）

午前

東村山市「被爆石モニュメント」見学・「東村山ふるさと歴史館」見学

東大和市「戦争体験映像記録」視聴

午後

東大和市「旧日立航空機株式会社変電所」見学

グループワーク「地域の戦争・平和学習について感じたこと、考えたこと」
「広島で学びたいこと」

被爆石モニュメント見学

地域の戦争・平和学習会の第一歩として、東村山市立中央図書館前にある『被爆石モニュメント』を見学しました。

「被爆石モニュメント」とは、昭和20（1945）年8月6日の原爆投下時に被爆した広島市役所旧庁舎の庭にあった敷石と、同年8月9日に被爆した長崎市立山里小学校の校舎の壁の一部を東村山市が譲り受け、平成元（1989）年9月25日に設置したものです。

長崎市の山里小学校は、爆心地から約600メートルのところのところにあり、原爆の熱線を浴び多くの命が奪われた場所です。戦後、原爆の恐ろしさを訴え続ける貴重な建物の一つとして、小学校は保存されてきましたが、昭和63（1988）年、建物の老朽化により解体され、東村山市が譲り受けました。

説明を聞いた小・中学生たちは、身近な場所に原爆の痕跡が残されていることを知りました。



東村山ふるさと歴史館見学

東村山ふるさと歴史館で、戦時下の東村山市の様子や、市内にあった戦争関連施設について学びました。

小・中学生たちは、当時、東村山地域にもB29が飛来し照

明弾と時限爆弾が投下され、家屋が被災し死者が出たことを教わりました。また、南秋津に墜落し死亡したB29の乗組員を追悼し、昭和35（1960）年に地元市民の手によって建立された「平和観音」のお話を聞きました。当時の人々の平和を祈念する気持ちに触れ、平和について考える機会となりました。

軍事施設である「東京陸軍少年通信兵学校」についての説明では、全国から受験し合格した15歳前後の少年たちが、モールス信号の送受信や通信機の扱い方について厳しい訓練を受けていたことなどを学びました。当時の子どもたちの暮らしを想像するとともに、その後の展示の見学を通じて、より見識を深めました。



戦争体験映像記録視聴

【東大和市戦争体験映像記録「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」】

東大和市では、戦後70年の節目である平成27（2015）年に、平和の大切さを再認識するとともに、戦争を風化させることがないように、旧日立航空機株式会社に勤務されていたかたの戦争体験談や、旧日立航空機株式会社変電所の歴史や現在の姿をまとめた映像記録を制作しました。

小・中学生は、当時の様子を思い浮かべながら、貴重な体験談を視聴しました。



旧日立航空機株式会社変電所見学

東大和市の都立東大和南公園内にある「旧日立航空機株式会社変電所」を見学しました。

昭和13（1938）年に建設された軍需工場の変電施設である旧日立航空



機株式会社変電所は、昭和20（1945）年の空襲による傷痕が残る施設です。アメリカ軍から1,800発あまりの爆弾による攻撃を受け、工場のほとんどが壊滅した中、変電所だけは残り、戦後も稼働し続けました。平成5（1993）年まで操業を続け、平成7（1995）年に東大和市の文化財に指定されました。

小・中学生たちは、空襲による生々しい被害の痕が残る建物を見学し、外壁を貫通した銃痕をまじまじと見つめ、あらためて攻撃のすさまじさを実感しました。また、東大和市立郷土博物館の職員から、施設周辺の状況や、働いていた方々の被害についても説明を受け、理解を深めました。

グループワーク

地域の戦争・平和学習について、4つのグループに分かれ、ふせんと模造紙を使ったグループワークを行いました。「地域の戦争・平和学習について感じたこと、考えたこと」「広島で学びたいこと」について、各グループの発表を聞き、広島での学習に向け、それぞれの考えをまとめました。



1 日目
8/4(日)

広島被爆者体験講話の聴講

講師: きりあけ ちえこ さん

広島に原子爆弾が投下された 79 年前、切明さんは、当時 15 歳でした。広島県立広島第二高等女学校 4 年生だった切明さんは、毎日、学徒動員で工場へ働きに行っていました。8 月 6 日は、勤労働員の休みをもらい、足の治療で病院へ向かっていました。午前 8 時 15 分、橋のたもとにあった倉庫の軒下で日差しを避け、少し休んでいこうとした瞬間、すさまじい閃光が走り、爆風により地面にたたきつけられました。切明さんが気が付いた後、目の当たりにしたのは、全身火傷や水膨れで、誰だか判別できないほどの様子の下級生たちでした。その子たちを必死に介抱しましたが、多くの子どもたちがそのまま亡くなりました。

戦争の体験は、あまりに辛く残酷なもので、ずっと思い出したくないことだったと、切明さんは、その胸の内を静かに語ってくださいました。話せるようになるまで、長い時間が必要でした。しかし、あの日起きたこと、あの日亡くなった友達のことを伝えなければならない。切明さんから直接語られる被爆体験は、小・中学生たちの心に強く響きました。

切明さんが、最後に小・中学生たちに向けた言葉です。「平和は必死で手繰り寄せ、皆でつかんで守っていかないと、飛んで行ってしまうもの。必死で平和を守っていきましょう。戦争なんかで死ぬことがないように。あなたたちの輝かしい未来を心から願っています。」

聴講後、グループごとに講話を聞いて感じたことや分かったこと、そして考えたことを話し合い、発表しました。切明さんから語られた言葉の重みを受け止め、平和を守り、そして平和な世界を未来につなげていくために、自分たちに何ができるのかを、ひとりひとりが真剣に考えました。



グループワークの様子



2日目
8/5(月)

袋町小学校平和資料館

爆心地から 460 メートルの距離にある袋町小学校では、疎開していた生徒を除いて大半の人が犠牲になりました。

原子爆弾により木造校舎は全壊全焼し、鉄筋コンクリート3 階建ての西校舎は外郭のみ原形をとどめました。かろうじて倒壊を免れた西校舎は原爆投下翌日から救護所となり、階段の壁面には被爆者の知らせる多くの伝言が残されました。今でも残っている内壁の一部に書かれた伝言を見て、当時の過酷な状況に小・中学生たちは胸を痛めました。



島病院（爆心地）

相生橋を狙って投下された原爆はやや東にそれ、島病院の上空約 600 メートルで炸裂しました。この一帯は、約 3,000 度から 4,000 度の熱線と爆風や放射線を受け、ほとんどの人々が一瞬で命を奪われました。現在は島内科医院となっており、建物の横に説明板があります。当時の写真からは想像もできないほど、静かなビル街となっていますが、この地に恐ろしい威力の原爆が落ち、建物も病院内にいた人も、跡形もなくなってしまったという事実、小・中学生たちは衝撃を受けている様子でした。



原爆の子の像

2歳で被爆した佐々木禎子さんは、小学6年生の時に白血病を発症しました。病気を治したいという願いを込めて鶴を折り続け、その数は千羽を超えましたが、8か月の闘病生活の後、12歳で亡くなりました。

禎子さんの友人たちの熱心な思いが世間を動かし、原爆の子の像は建立されました。像には、年間約 10 トンにも及ぶ、1 千万羽もの折り鶴が捧げられます。小・中学生たちも、自分たちが折った折り鶴を捧げ、平和を願いました。



原爆ドーム

大正4（1915）年に「広島県物産陳列館」として建てられ、戦時中は官公庁等の事務所として使用されていました。爆心地から約160メートルの至近距離にあったため、当時建物の中にいた人は全員が亡くなりました。平成8（1996）年12月には、核兵器廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルとして世界遺産に登録されました。見事に復興を果たした広島街並みで、唯一破壊されたままの姿を残している原爆ドーム。原爆の恐ろしさ、残酷さを静かに伝える原爆ドームを前に、小・中学生たちは、戦争の悲惨さと平和の尊さについて、改めて胸に刻みしました。



平和の灯

台座は、手首を合わせ、手のひらを大空に広げた形を表現しています。水を求めてやまなかった犠牲者を慰め、核兵器廃絶と世界恒久平和を希求するため、建てられました。昭和39（1964）年8月1日に点火されて以来、核兵器が世界中から無くなり、恒久平和が実現する時まで、燃やし続けられると言われています。



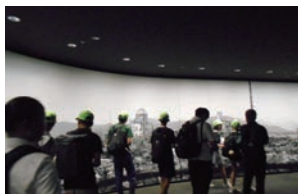
本川小学校平和資料館

爆心地から至近距離にあった旧本川国民学校の校舎にある平和資料館を見学しました。当時は珍しかった鉄筋コンクリート建ての校舎は骨格を残してほぼ全焼し、校長、教職員10名、児童約400名の尊い命が奪われ、奇跡的に助かったのは教職員1名、児童1名だけでした。小・中学生たちは、被爆後の写真や熱で溶けたガラス瓶等を真剣に見学し、熱線による被害の大きさを目の当たりにしました。



広島平和記念資料館

広島平和記念資料館は、原爆投下の瞬間を再現したホワイトパノラマ、被爆者の遺品など、被爆の惨状を示す写真や資料を展示するとともに、



広島歩みなどについて紹介しています。建物疎開の作業現場で被爆し亡くなった折免滋さん（当時13歳）が持っていたお弁当箱や、鍬谷伸一ちゃん（当時3歳11か月）が原爆投下の瞬間に乗っていた三輪車等が展示されており、小・中学生たちは、当時の子どもたちの身に容赦なく降りかかった、目を背けたくくなるような惨劇を目の当たりにしました。原爆の恐ろしさで一瞬にして多くの命を奪う残虐性を知り、二度とこのような悲惨な出来事を繰り返してはならないと平和への思いを強くしました。

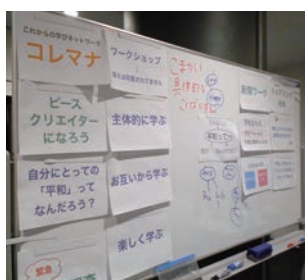


ピースクリエイターになろう 特定非営利活動法人 これからの学びネットワーク

広島平和記念資料館で当時の原爆被害や今日に至るまでの広島歩みを学んだあと、「平和」とは何か、について改めて考えました。「私にとっての「平和」とは何だろう。」ひとりひとりが「平和」について、自分の言葉で表現し、お互いの考えを知り、共有しました。答えは決してひとつではなく、「平和」について自分の考えを深めるための時間でした。

両端にピンクとブルーの色がつけられたロープを用いて、平和の度合いを可視化する世論調査。「今の日本は平和ですか?」「あなたは平和的な人間だと思いますか?」といった質問に、小・中学生はロープを握ってそれぞれの度合いを表現し、そして、なぜそう思うかを共有しました。また新聞記事を読み、平和的なもの、平和的でないものについて分類したり、模造紙の上

に、どんなことが「平和」なのか、言葉で書き表していきました。最後に、自分にとっての「平和」を考えました。なぜそう考えたのか、理由をグループ内で共有し、ピースクリエイターとしての第一歩を踏み出しました。



グループワークの様子



3日目
8/6(火)

平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）

平和記念公園で行われた平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）に参列し、原爆の犠牲になられたかたに哀悼の意を込め、恒久平和を祈って黙とうを捧げました。広島市長の「平和宣言」、平和の象徴である鳩が一斉に放たれたあと、小・中学生たちは、同世代のこども代表の「平和への誓い」に耳を傾けました。「願うだけでは平和は訪れません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。」という言葉に、自分たちができる平和への一歩は何かを改めて考えました。



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は、国として、原子爆弾死没者の尊い犠牲を銘記し追悼の意を表すとともに、永遠の平和を祈念するために建てられた施設です。

地下2階にある平和祈念・死没者追悼空間の壁面には、爆心地付近からみた被爆後の街並みが、死没者数約14万人と同数のタイルを用いて表現されており、小・中学生たちは圧倒されていました。

また、保存されている原爆死没者の名前と遺影や被爆体験記、証言映像などの資料から伝えられる戦争の悲惨さや恐ろしさ、そして無差別に多くの命を一瞬にして奪った原爆の残酷さは、小・中学生たちに大きな衝撃を与えました。



路面電車

広島を走る路面電車は、原爆により壊滅的な被害を受け、全線不通となりましたが、原爆投下からわずか3日後、関係者たちの不撓不屈の努力によって一部区間が復旧し、運転を再開しました。被爆した車両は「被爆電車」と呼ばれ、現在も、被爆電車651号と652号の2両は、人々を乗せて広島を走り続けています。

今回は通常の路面電車での移動となりましたが、小・中学生たちは、窓から現在の広島を眺めながら、この3日間で広島を学んだことをひとつひとつ思い返すとともに、当時の広島へ思いを馳せました。



- ◆ 本事業は、東大和市と東村山市の共同実施事業のため、報告会は、各市で実施した平和行事の中で行いました。事業を通して勉強し、分かったことや気づいたこと、そこから何を感じ、思ったのかを発表しました。AからDまでの4グループのうち、A、Bグループは東大和市「平和市民のつどい」、C、Dグループは東村山市「平和のつどい」で発表を行いました。

報告会

①

日時 令和6年8月17日（土） 東大和市「平和市民のつどい」

場所 東大和市ロンドみんなの体育館 第一体育室

Aグループ

地域の戦争・平和学習では、旧日立航空機株式会社変電所を見学し、80cmのコンクリートを通るほどの激しい機銃掃射だったことを知りました。そして111人も人が犠牲になったことを知り、当時の空襲の恐ろしさを実感し、想像するだけで鳥肌が立つと、当時の人々の気持ちになって発表しました。

また、広島派遣では、被爆体験者の切明千枝子さんの講話を聞き、話し方や話す内容がとても痛々しく感じた、と感想を述べました。そして「戦争や原爆がなくなっただけでは平和ではない」という切明さんの言葉に強く共感したことを伝えました。広島平和記念資料館では、当時の悲惨な写真や日本兵、幼い子どもの服などの遺品を目にし、そこに原爆が落ちた一瞬で人々を消し去った情景が見られ、原爆の激しさを目の当たりにしてとても心が痛んだと語りました。そして、二度と同じようなことが起きないようにしていきたいと、平和への強い思いを伝えました。

〈個人の発表〉

- 私は、この平和学習に参加するまで学校の授業や教科書などでしか、戦争や原爆についての知識がなかったけれど、平和学習に参加することで平和についてや戦争について深く考える事が出来ました。特に被爆者体験講話では、原爆を受けた本人の話を聞くことができ、話し方や話す内容などで、当時の思いや考えなどを理解し、悲しさや辛さなどが分かりました。平和な世界にするには、戦争や原爆がなくなるのはもちろんのことだけど、いじめや差別などをなくし、どんな人でも気持ちよく過ごすことができる世界にすることが大切だと思いました。被爆者のかたもおっしゃっていたけれど、平和を作り、守る考えが必要だと思いました。以上の事から私は、周りの人に伝えていき、過去にあった出来事を忘れないようにすることが大切だと思いました。
- 私は、広島で原爆のことや平和について学びました。広島平和記念資料館に行って、入ってすぐに、当時原爆が落とされ建物が一瞬で崩れていく展示物がありました。見学をしていくと、当時の人々の助けを求める叫びが表現されている絵や、くっきりと人影が焼き付いたコンクリートが展示されていました。そして、私が一番印象に残った物は、原爆によってぼろぼろになってしまった服や小さなズボン、溶けてサビついた三輪車、ずっと大事に握りしめていた物

を見た時でした。次に、東大和市にある変電所に行きました。そこでは、米軍が投下した500ポンドの爆弾が展示してありました。壁なども機銃掃射によって穴があいていました。この3日間いろいろなことを学びました。被爆者のかたから貴重なお話を聞いて、多くのことを知り、たくさんのかたから学びました。これらの学んだことは、知らない人たちに伝えていきたいです。

- 私は、広島へ行って色々なことを学びました。戦争とはと聞かれても、はっきりすぐには答えられません。でも、広島へ行って戦争の恐ろしさを目の当たりにしました。これをきっかけに、広島の色んな場所へ行って戦争についてどんどん知ることができました。切明千枝子さんの話を聞いて、考え方が変わりました。特に「戦争が終わっても平和ではない」という考え方を知って、平和の尊さを知れました。この事業に参加することで、広島で当時何があったかをはっきりと知ることができました。みんなの色々な意見を聞いて、自分の考えを見返したりするようにもなりました。もうこんな戦争を起こさぬように、次の世代へも伝えていきたいと考えます。被爆体験者が私たちに伝えてくれたようにしたいなと思いました。
- 広島で戦争について勉強してきました。広島に行って特に印象に残っているのは、「原爆ドーム」です。私は原爆ドームをテレビでしか見たことがなかったので、どのくらいの衝撃を受けたのか、大きさはどのくらいなのか、テレビで見て分からなかったことが目の前で分かりました。他に広島では被爆者の切明千枝子さんのお話を聞きました。原爆はどのくらい恐ろしいものか、切明さんのお話を聞いて一番に分かったことです。実際に原爆を体験されたかたにお話を聞けるのは、この事業に参加できたからだと思います。平和学習では変電所をじっくり見ました。変電所の壁の80cmという厚いコンクリートを通している部分を見てびっくりしました。この平和学習、広島派遣事業とともに、戦争についてもっと調べてみたいと思いました。



■私は、広島派遣事業を通して、平和とは何だろうと、改めて思うようになりました。広島派遣事業に参加する前は、平和とは、戦争がないことだと思っていました。そして、広島派遣事業に参加し、様々な体験をしました。平和のことについてもたくさん学びました。特に、切明千枝子さんの話や、ピースクリエイターになろうなど、

B グループ

地域の戦争・平和学習では、旧日立航空機株式会社変電所の被害を学び、3回の空襲で111人もの人が亡くなったことや、当時は幼い子どもでも危険な工場で働いていたことを知りました。戦争とは、女性や子どもにも容赦しないものであるということ、また、やっとの思いで空襲から逃れた人の多くが、防空壕で亡くなってしまったという話に、胸を痛めました。

広島派遣では、被爆体験者の切明千枝子さんの講話から、馬や犬といった動物も戦場に連れていかれていたことや、当時は十分な食べ物もなく、なんとか生き残ることができても後遺症により亡くなってしまった人が多くいたことを知り、当時の人々の苦しさや大変さ、怖さや憎しみが伝わってきたと感想を述べました。見学で訪れた広島平和記念資料館では、原爆の恐ろしさを後世に伝えていくための取り組みがされていることを実感するとともに、8月6日に実施された平和記念式典への参加を通して、「この日に起きたことを忘れないよう、大切にしていることが分かった」と発表しました。最後に、平和とは何かを考え、二度と戦争をしてはいけないと、平和への思いを強く訴えました。

〈個人の発表〉

■私が広島に行って学んだこと、考えたことを紹介します。学んだことは、命の尊さです。なんの罪もない人々が一瞬にして命を奪われてしまったり、放射線の影響を受けて亡くなってしまったり、計34万人以上の方が亡くなってしまっているのを知って、やはり「命は尊い」ことを実感しました。明日がくるはずだった人たちや、明日も一緒に過ごせるはずだった人たちが原爆によって亡くなってしまいました。だから、これからも、相手の命も大切にしながら生きていきたいと思いました。次に考えたことは、「どのようにしたら平和になるのか」です。私はお互いを認め合えれば平和に近づけると思います。お互いの意見や、文化の違いを認め合っていないからこそ、争いが起きているのだと思います。だから、これからは、自分の意見と相手の意見が違った時もそれを認め合って、お互いの違いを良いと思えるような人になりたいなと思いました。

■私は、広島に行って平和について知り、どうしたら世界中が平和になるのかを考えさせられました。まず、いろいろな資料館を見て、原爆の被害で赤ちゃんからお年寄りまで無差別にケロイドにされたり、手足や目などを奪われて殺されたことが写真や絵から分かりました。特に私は、意識があるのに建物の下敷きになって、そのまま焼け死んでしまった人たちがいたことが、自分が死ぬのを自覚して死んでしまったので悔しかったんだろうなと思いました。次に被爆者の切明さんの話で「油断すると平和が逃げる。すると知らない間に戦争が起きる」ということを聞いて、私たち皆が戦争の悲惨さ、平和の大切さを次の代に伝えていけば、誰も戦争を起こさず、いじめをしようなんて思わない平和

平和についてたくさん考えることができました。ピースクリエイターになろうでは、平和とは何だろうと考えさせられました。グループの中でたくさん話し合い、何をすれば平和を守れるかなどを考えました。広島から帰ったあとでも、忘れないようにしようと思いました。

な世界になると私は思いました。

■私は、広島に行って学ぶ前は、戦争については、詳しくは知らなかったけれど、今回の広島派遣事業は、戦争について学ぶきっかけになりました。だから、広島に行って、たくさん見学をした中で、特に、『広島平和記念資料館』に行って、原子爆弾が落とされた時の写真や服などが展示されており、自分たちは、79年前には、生まれていないからリアルには分からないけど、展示されているものを見たので、79年前の広島にいるような感覚になりました。それほどの衝撃を受けました。だから、私たちが広島で勉強したことを、次の時代につなげていきたいです。これからも、平和について沢山考えていきたいです。

■私は広島に行って平和のことを学びました。被爆者の切明千枝子さんの話を聞いて、戦争の恐ろしさを知りました。人間だけではなく動物も戦争に連れていかれて可哀想でした。昔日本は、神様の国と呼ばれていて最後には、絶対勝つと信じて戦ってきた人々は、どんなに無念だったでしょう。たった一つの原爆でたくさんの尊い命が奪われました。関係のない人々がなぜ残酷な原爆で命を落とさなければならなかったのか。戦争という出来事で未来を断たれてしまった人々が可哀想でした。平和というものは、地球に住んでいるみんなが笑顔で暮らせることだと思っています。今の日本は、平和とは何かが分かっています。しかし、まだ平和ではない人々がいます。だから僕たちは、平和とは何か、戦争してはいけない理由を次の世代に伝えていきたいです。

■私は、広島に平和学習をしに行きました。被爆講話では、当時15歳の時に被爆した切明千枝子さんに、原爆が投下された時の様子や他の国との戦争、平和の大切さについてお話をいただきました。人だけではなく動物までも戦場へ行かされていたことが特に印象に残りました。資料館では、多くの戦争によって亡くなった人の遺品を見学することができました。特に滋君の黒く焦げてしまった弁当と、溶けて固まったガラスが印象に残りました。原爆ドームを見学して、元々あった建物と比べて壊れてしまっている部分が多く、1つの原子爆弾でも建物をあんなに壊してしまうことに驚き、改めて原子爆弾があっちはいけない物だと感じました。地域の戦争・平和学習では、旧日立航空機株式会社変電所とふるさと歴史館に行あの戦争もあったことを知りました。これからは、この経験を生かして、多くの人に平和の大切さと命の尊さについて伝えたいです。



報告会 ②

日時 令和6年8月25日(日) 東村山市「平和のつどい」

場所 東村山市立中央公民館ホール

C グループ



地域の戦争・平和学習では、東村山ふるさと歴史館の学習で学んだ平和観音について報告しました。米軍機B29が墜落したことで、アメリカ兵11名もの

命が奪われたことに心を痛め、そしてまた、アメリカ兵を追悼し、平和を祈念するために、平和観音が建てられて良かったと語りました。

広島派遣では、被爆体験者の切明千枝子さんの講話を聞き、広島が昔、軍都広島と呼ばれていたことに驚くとともに、その広島が、現在は戦争をしてはいけないということを世界に発信していることに、時間の流れを感じたと話しました。当時は、動物も戦場に連れていかれたことを知り、とても胸を痛めました。また、原爆ドームを実際に見て、原爆の恐ろしさを感じたと発表しました。丈夫な構造の建物を一瞬で破壊してしまう威力を持つ核兵器は、絶対に使ってはならないと訴えました。

〈個人の発表〉

■私は広島で、命の尊さについて学びました。命は、一人一人に一つしかないものだから無意味に奪ってはいけないものだということを身に染みて感じました。けれど、戦争ではその命を容赦なく奪うことも、よく分かりました。自分がやられたら嫌なはずなのに、それを考えられない人たちがいることもよく分かりました。自分たちがやられたらどうなのか、自分の住む国からどのような声があがるのか、殺された人の家族のかたはどう思うのか、どれだけの犠牲者がでるのか、殺された人たちからどう思われるのか、どう責任を取るのか、それらをなにも考えていないからこそ行動だと私は思います。私は、被爆者ではないけれど、広島で学んだことを活かし、今後伝えていきたいです。

■私は広島で、平和の大切さについて学びました。今、私たちが当たり前の日常も、昔にとっては、当たり前ではなく、とても幸せなことだと分かりました。それは、79年前、原爆が落とされたからです。それからは、日本全体で、戦

争の恐ろしさを語ってきました。特に広島では、広島平和記念資料館や国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、袋町小学校、本川小学校などで、多くの人に戦争の被害や恐ろしさを知ってもらおうと努力しているということが分かりました。これから私が平和のために行動していきたいことは、たくさんの人へ、戦争の苦しさ、悲惨さ、恐ろしさや今は平和だということなどを伝えていきたいです。

■僕は広島で、戦争や核兵器の恐ろしさを学びました。命は一人に一つしかなく、大切にしなければなりません。しかし、戦争は、人の命を奪ってしまいます。広島平和記念資料館や原爆ドームを見て、多くの人や建物が壊された原子爆弾はもう使わないでほしいと思いました。原子爆弾を使うと79年前の広島のような悲惨なことになってしまうと世界に知ってもらい、戦争をしない、核兵器は使わないといった意識を持ってもらうことが大切だと感じました。ピースクリエーターになろうと平和を実現することの大変さを知りました。世界を平和にしたり、核兵器をなくすことは難しく、簡単にはできないと思いますが、平和になるように相手のことを考え、大切にすることを意識持とうと思います。

■私は、広島でたくさん新しいことを経験しました。知らなかったものを食べて、初めての道を歩いて、新しい経験をしました。でも、いろいろなことを知っていくうちに、原爆や戦争のことが広島に行く前よりも信じられなく、もっと分からなくなってしまいました。人々の苦しみや悲しみ、痛みや想いなどがあまりにも辛すぎて、のどかな今の広島が昔は生き地獄だったことが信じられなくて、現実にあった出来事だと理解したくない、現実逃避している自分がいます。ピースクリエーターになろうという事業を受けて、平和の難しさを知りました。みんなが幸せになることは難しいことだけれど、戦争のない世界をつくることは実現できるかもしれないと思いました。私がこれから平和のために行動していきたいことは、身近な幸せを大切にしていこうことです。皆が幸せを大切にしたら、きっと世界はよくなっていくと私は思います。戦争のない未来が来るように、幸せを大切にしていきたいです。

D グループ

地域の戦争・平和学習では、東村山ふるさと歴史館での学習や被爆石モニュメントの見学を通して、身近な地域に

も戦争の爪痕や歴史が深く残っていたことを実感したと語りました。また、被爆石モニュメントのように、自分たち

が知らないだけで、静かに戦争について伝えるものがまだ他にもあるのではないかと、この感想を述べました。

広島派遣では、広島平和記念資料館を訪れ、被爆した人たちが水を求めて苦しんでいる写真や映像を目にし、当時被爆した人たちの「あの時の広島は地獄だった」という言葉がよく分かった、そして、あまりの恐ろしさに目を背けたくなった、と話しました。被爆者はこれほどまでに恐ろしい思いをしていたにもかかわらず、思い出したくもないような恐怖と向き合い、自分たちに伝えてくれていることを知り、その思いや使命感に心を打たれました。また、平和の灯について、「平和になったら消える火」ではなく、戦争や争いで暗くなった世界を導く「灯」、「平和のあかり」と思わせるようなとても意味のある火だと思うと発表しました。

〈個人の発表〉

■先日行ってきた広島派遣事業や事前学習では、式典への参加や被爆者体験講話など様々な貴重な体験ができました。ただ、学習で最も多かったのは、資料館で資料や展示品を見ることが多かったと思います。資料を見ていてまず共通していると思ったことは、どんな資料であろうと、独特の重い雰囲気をもっていることです。初めのうちは、この独特な雰囲気の正体が何か分かりませんでした。ただ、多くの資料や残酷な展示品を見たうえで、やっと理解できました。資料がもった重い雰囲気は多くの人の強い悲しみと、原爆という過ちの愚かさだったのだと思います。ただ、それは理解しようと思わなければ理解できないと思います。ただ見てるだけでは深い学びは得られません。今、私たちに必要なのはこれと同じように、戦争について理解しよう、平和について考えようという意欲ではないでしょうか。

■私はこの広島派遣事業で学んだこと、平和のためにしていきたいことがあります。それは、戦争の恐ろしさを後世に伝えることです。私は、広島を訪れる前、広島では恐ろしいことがあった、ということは知っていましたが、その時はまだ、疑心暗鬼でした。しかし、広島平和資料館の「被爆の実相」という展示場所で、人々が大火傷を負って水を求める写真や、ひどい火傷を負った人々をなんとか手当をしている人の映像があり、とても恐ろしく、それはまさしく《地獄》でした。ここでやっと、原爆の恐ろしさが自分の中で分かった気がしました。私はその後思ったことがあります。広島に原爆が落されたのち、終戦しましたが、それ以外の方法で戦争を終わらせられなかったのか。話し合いで、戦争を終わらせることはできなかったのか。そうすれば、多くの人々が命を落とすことはなかったのに。なぜたくさんの人々の命が奪われなくてはならなかったのか。核爆弾の恐ろしさを知った私たちが、核爆弾を無くしていくことが大切なんだと思いました。みなさんも今一度、原

爆について、考えてみてください。平和のために私がしていきたいことは、そうして周りの人に語り掛けていくことです。

■僕が広島派遣に行行って学んだこと、思ったことを言います。僕が広島派遣事業で学んだことで一番印象に残ったことは、原爆についてです。この広島派遣事業に応募する前は、原爆は地面に落ちて爆発するだけかと思っていました。でもこの広島派遣事業に応募して、実際に目で見て聞いたら、まったく違うことがわかりました。原爆は上空で爆発して放射線も出して、人に害を与えることを学びました。この広島派遣事業を通して思ったことは、戦争はとっても残酷だということです。戦争は自分の手で人のことを殺めたり、人に害を与えるし、戦争をして何も良いことはないと思いました。

■僕は、平和学習及び広島派遣事業に参加して、印象に残ったことが2つあります。1つ目は、戦争体験講話を聴いて、今までは知らなかった戦争のことがたくさんあったことです。その中でも、残酷だと思ったことは、人以外の動物も戦場に連れて行ったということです。どうしてかということ、罪のない動物までもが戦争で使われていたということが残酷だと思ったからです。2つ目は、ピースクリエイターになろうで知ったことです。ピースクリエイターになろうでは、平和を作るためには何が必要かを考えました。この学習をやって、平和の考え方が変わりました。この事業に参加して、戦争の悲惨さや平和の尊さが、よくわかりました。

■私は、平和学習及び広島派遣事業で、昔にぎやかだった広島街が、たった1つの原爆によって地獄のような場所になってしまったこと、子どもでも働かせられ、親に会いたくても会えずに亡くなったり、その亡くなった人を目の前で見て、泣きながら自分の手で埋める子どもたちがたくさんいたことなどを学びました。特に、被爆者体験講話が印象に残っていて、話してくれたかたは、「平和はつかまえていないと逃げていく、だから平和を守ってほしい」とおっしゃっていました。この話を聞いて、平和をつかまえるとはどのようなことか、考えてみました。私は平和をつかまえるとは戦争で恐ろしい、苦しかったことを語り継ぎ、平和について考えることだと思います。この事業で学んだことを他の色々な人へ話し、みんなで平和を守っていくことが、私たちができる平和への行動だと思います。



A グループ

広島派遣事業を通して学んだこと

齋藤 奏

私は、この事業を通して、明日が来ることの喜びや当たり前の日常の大切さを知りました。普通に生活していたらあまり考える事のないことを、今回の事業で戦争についてや原爆についてを学んだことで深く考えることが出来ました。

事前学習では初めて機銃掃射に遭った建物を見ました。想像していたものよりとても痛々しかったです。建物に無数にある銃撃のあと、中には中が貫通しているものもありました。また、200kgの実物大の爆弾の模型があり、「この大きさであんなに大きい被害を生むなんて。」と驚き、悲しい気持ちになりました。

広島派遣1日目は、被爆者の切明千枝子さんの話を聞きました。私が一番印象に残っているのは原爆により亡くなった人達の話です。原爆を受けた人のほとんどは全身やけどで亡くなっていました。核爆弾は、空中で爆発するので、骨も残りませんでした。切明さんの話を聞き、資料館で見るものよりもリアルで新鮮な気持ちになりました。話し方などで本当に平和で争いのないことを願っているように思いました。その後は、夜ご飯を食べたのちホテルに行き、1日が終わりました。

2日目は、袋町小学校平和資料館に行きました。ビデオを見た時、人々の家族に対する思いが伝わってきてすごくすてきだと思いました。爆撃によって黒くなった壁に伝言が書かれていた時にそう思いました。その後は、原爆の子の像に行きました。そこでは、佐々木禎子ちゃんの話を知りました。私は、原爆で生き残っても放射能や窒息によって亡くなってしまうことを知りました。

ピースクリエイターになろうでは、自分とは違う意見や考えを聞くことが出来ました。

平和の灯は、世界から核爆弾がなくなった時に消すことを知りました。私は、早く核がなくなり、火が消えてほしいと思いました。



3日目は、平和記念式典に参加しました。当日は、世界各国の人々がたくさんいて動くのもとても大変でした。一番印象に残っているのは、子供達の主張です。自分とはあまり年の変わらない子供があんなにはっきり自分の意見や主張を言えるのはすごいと思いました。その後は、原爆ドームを近くで見ました。テレビや資料などでは、1部の方向からしか見たことがなかったけれど、いろんな方向から痛々しい建物を見ることが出来ました。また、建物の下あたりには、瓦礫などがたくさんあり見たことがなかったのでもとても驚きました。その後は新幹線の中で「しげる君弁当」を食べました。

私は、この広島派遣事業を通して最初は、旅行に行けるというような軽い気持ちでしたが、さまざまな学習を通して戦争の悲惨さを学ぶことができました。今回学んだことを身近な人に伝えていきたいと思います。

今、生きていることの幸せ

藤本 美羽

私が、この広島派遣を通して学んだことは、戦争は二度と起こしてはいけないことと、平和の大切さです。

3日間にわたる事業の中で私が特に印象に残ったことは3つあります。

まず1つ目は、広島平和記念資料館です。入ってすぐに、当時原爆が落とされ建物が一瞬でくずれていく展示物がありました。見学をしていくと、当時の人々の助けを求める、叫びが表現されている絵やくっきりと黒い人影が焼き付いたコンクリートが展示されていました。そしてその中でも私は、原爆によってぼろぼろになってしまった服や小さなズボン、溶けてサビついた三輪車、ずっと大事に握りしめていた物を見た時が印象に残りました。遺品の一つ一つに込められた人々の思いを感じ取り、戦争は繰り返してはいけないという思いが伝わってきました。

2つ目は、切明千枝子さんの被爆者体験講話です。切明千枝子さんは、当時15歳で被爆し、現在95歳で平和や当時の戦争について話してくれました。このお話を聞いて、原爆が落とされたのは一瞬だとしても苦しさは永遠に続くことを理解しました。私は原爆を受けて生き残った方々のその後について考えたことがありませんでした。人間だけではなく多くの動物も戦場へ連れていかれたことを初めて知りました。そして被爆者からお話を聞くことができとても貴重な経験になりました。

3つ目は、原爆の子の像です。像のモデルとなった佐々木禎子さんは被爆したものの奇跡的に助かりました。これまでは身近に感じたことがなかった戦争ですが、自分よりも幼い子供達が亡くなったと考えると関係ないことではないんだと実感しました。もし、戦争をしていなかったら、原

爆が落ちていなかったら、今の私達が想像しているようなことを想像し、何も苦しまないで平和な明日を迎えることができ、大切な人と幸せに生きて暮らすことができていたと思います。

私はこの事業に参加するまでは今生きていることや明日が来るのがこんなにも幸せなことだと分かっていませんでした。私達の未来にまた同じようなことが起きないために、平和な社会を守っていかなくてはなりません。そのために私は、被爆者の方の思いを受け継ぎ、これからの世代に語り継いでいきたいです。

最後に、私にこのような貴重な経験をさせて下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



この事業で学んだこと、たのしかったこと

中野 未玲那

まず、私がこの事業に参加した理由は、広島へ行って原爆ドームや広島平和記念資料館などをみて、戦争の悲惨さをもっと知りたいと思ったからです。次に、7月26日に行われた地域の戦争・平和学習会では、変電所を見て聞いて、今まで私が知っていた変電所のこと以外にも変電所のことを知れました。最初は友達ができるか、仲良くできるか不安だったけど、友達もできたとし、変電所のことたくさん知れました！この学習会では、変電所で昔は何をしていたかが分かりました。変電所の中もそのまま残っていて、自分的にすごいなと感じました。

次に、8月4日の広島に行くまでのことです。広島まで新幹線で行きました。初めて乗る新幹線は、わくわくでいっぱいでした。新幹線の窓からは、いろいろな景色が見れました。広島までだいたい4時間半くらいかかりました。広島の1日目は切明千枝子さん（95歳）のお話を聞きました。私は、被爆者の方にお話を聞くのが初めてだったので、いい機会でした。たくさん原爆のことなどを聞けてよかったです。広島は東京よりも暑くて大変だったけど、切明さんのお話を聞けたので、歩いたかいがありました！

2日目は、原爆ドームや広島平和記念資料館などいろいろな所を回りました。3日間の中で一番ピークな1日でした。広島平和記念資料館では、当時あったことや、展示物がたくさん飾られていました。当時のことが分かりました。原爆ドームを見た時は、思っていた原爆ドームの大きさより倍大きかったです。見た目もそうだけど、見る位置を変えると原爆ドームの中が見えました。中には、もうどこの部分か分からない崩れたブロックが散らばっていました。かたいコンクリートも粉々にしてしまうほどの原爆だったんだなと思いました。



ました。夜ごはんは、お好み焼きでした。東京と広島のお好み焼きは少し違くておもしろかったし、美味しかったです。2日目は忙しかったけどしっかり学べました。

3日目は、式典に参加しました。黙とうをしっかりしてきました。式典の後は、平和の灯を見ました。平和の灯は、平和になったら消えるということを初めて知りました。次におみやげです。広島のおみやげといったら、もみじまんじゅうなのでもみじまんじゅうを買いました！帰りの新幹線では、皆と3日間どうだったか話し合ったり、お昼ご飯（滋くん弁当）の具を当てるゲームをしたり、帰りはにぎやかで楽しかったです。この事業を受けて、戦争の悲惨さも知れたし、たくさんみんなとお話もできてすごくよかったな！と思いました。

広島派遣事業に参加して

平野 咲夢

私は、この広島派遣事業に参加していろいろなことを学びました。戦争の悲惨さや人の大切さ、原子爆弾の恐ろしさも学びました。東大和市でも昔すごく大変な戦争があったことが分かりました。変電所では、激しい機銃掃射があったことや戦争で多くの人が亡くなったことが分かりました。戦時中は、小さい子どもも親と離れなければならなくなったり、動物たちも戦争へかり出されました。馬や犬、鳥などは手紙のお届けで、猫は船にねずみが出た時に追い払う役目だったそうです。

被爆者の切明千枝子さんのお話を聞きました。戦争当時、小学生の千枝子さんは、火傷を負った子どもが死んでしまい、それを先生に埋葬しろと言われ火で焼き、骨を小指以外は残すと言われて、がれきや遺体を埋めることしかできなくて、平和記念公園の下には、遺体が埋められていて、切明千枝子さんはいつも公園を歩く時に亡くなった方に謝りながら歩いたと言いました。なので、戦争が終わっても平和ではないとおっしゃっていました。ただでさえ忘れたいような過去でも、こうやって思い出して次の世代へと伝えようとしてくれて、私たちの世代でも伝えていきたいと思いました。

広島平和記念資料館では、火で燃えた子ども用の服や自転車、他にもいろいろなものがありました。展示してあった物からは、まるで被爆者の叫び声が聞こえてくるようでした。平和記念式典では、広島で昔何があったかと次からはどうすればいいかを学びました。ほかの子たちとグループでいろいろ話しあって、みんなは今回の事業に参加してどう感じたかが分かりました。だからもう戦争はもちろん小さな喧嘩や言い争いも起こさないように頑張りたいと思いました。

最後に東村山市でも激しい機銃掃射があったと

知って驚きました。自分たちの住んでいる地域だけでなく、他の地域にも激しい戦争が行われていたことを知って、自分たちの地域以外にも、戦争によって今生きていたかもしれない人たちの未来がたった1回の戦争で奪われてしまうから、やっぱり戦争も犯罪もなくとも身の回りはまだまだ危険な所がいっぱいあることに気付きました。もう二度とこんな戦争を起こさないように、もう誰の未来も奪われないように頑張りたいと思いました。



この事業に参加して思ったこと

中澤 美結

私は、学校でもらった広島派遣事業の案内の用紙を見て、この事業に参加したいと思いました。なぜ興味を持ったかという、以前から青い鳥文庫の「ほんとうにあった平和と戦争の話」を読み、広島のことについて知りたくなったからです。

7月26日の地域と戦争・平和学習会では、東村山市と東大和市の戦争について学ぶことができました。東村山市では、ふるさと歴史館に行き、千本針や赤紙など、実際に戦争中に使われたものを見ることができました。東大和市では、旧変電所を見に行きました。旧変電所では、80センチメートルのコンクリートでできていた壁が空襲で穴が開いていたので、どれくらい空襲がひどかったのかが伝わってきました。広島だけでなく、私たちの住んでいる東村山市や、東大和市も、戦争の被害にあったということがわかりました。

そして、8月4日には、原子爆弾が投下された広島へ新幹線に乗って行ってきました。

まず1日目に、15歳の時に被爆した切明千枝子さんの話を聞きました。切明さんの話によると、人だけでなく、動物までもが戦争に連れていかれていたそうです。切明さんの「戦争がないことが平和ではない」という言葉がとても印象的でした。

次に2日目では、原爆ドームを遠くから見ました。原爆ドームは、原爆のおそろしさを伝えてくれました。他には、「ほんとうにあった戦争と平和の話」にのっていた禎子さんがモデルになっている原爆の子の像に行きました。原爆の子の像の周りには、平和の象徴である折り鶴がたくさんかざられていました。そして、私たちもみんなで折ってきた折り鶴をかざりました。

その後、平和記念資料館にも行きました。平和記念資料館では、原爆で亡くなってしまった方の言葉や、8時15分で止まっている時計など様々なものがありました。特に印象に残っていることは、しげるくんのお弁当です。お弁当箱の中は黒く焦げてしまっていました。私はこのお弁当箱を見て、「もし金属のお弁当箱でなかったらどうなっていたのだろう。」と思いました。

また、私は驚いたことが一つあります。それは、外国の人たちが多いことです。日本だけでなく様々な国から、平和のことや原爆のことを学びに来ていることを知りました。

その夜、ピースクリエーターになろうという講座を受けました。私は、その講座で、初めて中国新聞のことについて知りました。中国新聞は、原爆が落とされたことを初めて載せた新聞だったことが分かりました。

最後に3日目では、式典に参列しました。式典ではたくさんの国の人が参列していました。こども代表の平和の誓いの言葉にとっても共感しました。平和の誓いを聞いて、あらためて、もう二度と79年前の広島に戻してはいけなかったと思います。

式典が終わり、路面電車に乗りました。被爆電車も見ることができました。お昼ご飯は、前日に平和記念資料館で見たしげるくん弁当を再現したお弁当を食べました。しげるくん弁当は、豆とご飯を混ぜたものでした。当時の食事体験をすることができ、今の食事との違いが分かりました。

広島から帰った後の8月9日では、報告準備会に参加しました。報告準備会では、報告会で発表する内容を決めました。まず、今回学んだことを原稿に書き、発表順などを決めました。次に、リハーサルをし、他のグループの発表も見ました。他のグループの発表では、色々な意見に共感しました。

本番の東大和市の平和市民のつどいでは、たくさんの方が参加していました。緊張しましたが、みんな頑張って上手に発表することができました。

私は、この夏、とても良い経験をしました。これからは平和や戦争について知らない人たちに、経験してきたことを伝えていきたいです。



B グループ

広島で学んだこと

大塚 海緒

私はこの地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業という活動を通して、当時の人の暮らしや気持ちがとてもよく分かりました。まず、切明千枝子さんの被爆者講話で一番印象に残ったのは馬、犬、猫、鳩が戦場に連れていかれ、馬は兵隊の移動や荷物運びに使われて、犬は敵の匂いを追ったり手紙を渡しあったりすることに使われ、猫は食料を狙うネズミをとるために使われて、鳩は犬と同じで手紙を渡しあうために使われたことが分かりました。これを聞いて、戦争に関係のない動物まで連れていかれて可哀想だなと思いました。

私が切明さんの話を聞いて一番大事だと思ったのは、「油断すると平和が逃げる。すると知らない間に戦争が起きる。」という言葉で、戦争を経験して大切な人を亡くしている人が願っていることを私達が自分事のように沢山のの人に伝えていきたいと思いました。

次に、袋町小学校の壁の字でお母さんやお兄さんが落ちたチョークのかけらで必死で捜した跡がたくさん残っていて、可能性が低いのにずっと捜すのはすごいなと思いました。特に印象に残ったのが、爆風で太鼓がバリバリに破けていて、一瞬で大きな衝撃をもった風が原爆によって吹いたことが分かりました。

私の中で一番広島にいったことで印象に残ったのは、広島平和記念式典のこども代表の言葉です。すごくハキハキゆっくり喋ってくれて、色々な人に被爆者の辛さや原爆のひどさをしっかりどの席の人でも聞こえるような話し方で、この先も伝えていってほしいと思いました。

最後にいろいろな資料館を見てみて思ったことが1つあります。たくさんの資料館は日本人より

も外国の方が多かったようで、日本人の多くの方が戦争を他人事のように思っているらしく、日本は唯一の原爆を投下された国なので、ほかの国に原爆を使わせないためにも日本人の多くの人に原爆の恐ろしさを知ってもらいたいと私は思いました。最後に、この事業を通して思ったのは、切明さんの「油断すると平和が逃げる。すると戦争が起きる。」という言葉をいろいろな人に伝えて、戦争をやらないぞ、という気持ちの人が増えてほしいなと思いました。



広島と私

永松 椋

B
グループ

私は、先日、広島へ行きました。
広島で学んだこと、考えたこと、未来について、
3つのことについて体験談を交えて紹介します。

まずは、「学んだこと」についてです。私は、
広島で学んだことは、2つあります。

1つ目は、「命の尊さ」です。

命は、一人に一つしかない最も大切なものと、
皆さんも分かっていると思いますが、命は大切に
していても奪われてしまうことがあります。ある
日突然、原爆があの日に落とされるなんて、誰も
知りえないことだったと思います。明日がくるは
ずだった、明日がくると信じて疑わなかった人達
もいたと思います。でも、こなかった。明日も一
緒にいれると思っていてもいれなかった人達が多
くいました。なので、私もいつ死ぬかわかりませ
ん。明日死ぬかもしれない。だからこそ、明日が
くると信じるのではなく、今日を後悔のないよう
に生きていこうと思いました。

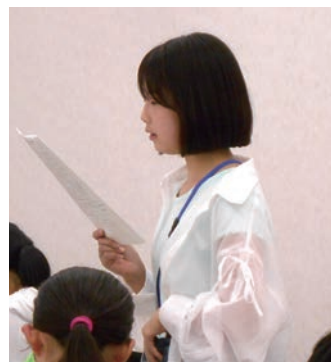
2つ目は、「体験する大切さ」です。

私は、実際に戦争を体験していませんが、被爆
者体験講話のお話を1日目に聴き、2日目に平和
記念資料館で様々な記録の資料を見たとき、被爆
者体験講話でお話を先に聴いたからこそ、怖さとい
うか、お話と写真や展示品が、リアルにはまっ
ていくというか、より印象に残ったというか、な
んとも言葉に表せない感情がありました。そんな
体験をし、もっと戦争について学ぶことができた
と思います。これらのことを広島で学べました。

次に「考えたこと」についてです。

「どうすれば、平和につながるか」です。私は、
「認め合えること」が平和につながると考えまし
た。なぜなら、戦争は、ケンカが国単位になった
ものだと考えました。なので、私は、なんで友達
とケンカしてしまうか考えたとき、相手の意見

を否定し、自分の
意見を通そうとし
ているからだと思
いました。なので、
自分の意見を通そ
うとするのではな
く、相手との意見
交換をした際には、



相手の意見を認め、できれば相手にも認めてもら
い、お互いに認め合えれば、ケンカにも発展せず、
どちらも良い気持ちで終われると思います。他に
も、相手の意見を良いと思えるようになりたいで
す。これが、私の考えたことです。

最後に、「未来について」です。

平和の灯は、世界が平和にならないと消えませ
ん。なので、平和の灯が、いつ消えるかわかりま
せん。私が生きている間に消えるかわかりませ
ん。でも平和に少しでも近づけるように、先ほど
の「考えたこと」を自分だけにとどめず、周りの
友達にも広めて、ほんのちょっとでもいい、それ
だけでもいいから、平和に近づきたいと思います。
これが私の未来についてです。

これらのことを広島派遣事業で学び、考えまし
た。正直、今、私は、もう一度この体験をしよう
とは思いません。でも、ここまでにするつもりは
ないです。また私が大人になって、もっと、ちゃ
んと戦争と向き合い、知りたいと思ったら戦争に
関する所に足を運び、沢山知って、沢山伝えてい
きたいです。

とても良い体験をさせて頂き、感謝しかないで
す。

参加させて頂きありがとうございました。

平和事業に参加して学んだこと

中澤 優斗

私は、地域の戦争がどのようなものだったのか、文書や写真だけでなく、実際に戦争の被害を受けた地域へ行き、学びたいと考え、今回広島派遣事業に申し込みました。

7月26日の「身近な地域での戦争」では、東大和市の旧日立航空機株式会社変電所と、東村山市のふるさと歴史館へ行きました。そして、戦争中の生活やどのような場所として土地が使われてきたかなどについて学びました。旧日立航空機株式会社変電所を見学した時に、厚いコンクリートの壁を貫通しているのを見て、厚いコンクリートに囲まれていたにもかかわらず安全ではなかったことに驚きました。

8月4日の被爆講話では、切明千枝子さんに、原爆が投下された時の様子と、他の国との戦争、平和の大切さについてお話いただきました。人だけではなく、犬や馬などの動物までもが戦場へ行かされていたことが特に印象に残りました。

8月5日の袋町小学校では、黒くなった壁に書かれた伝言や、原爆の爆風によって壊れてしまったドアと窓などを見学しました。

平和記念公園では、原爆の子の像や原爆ドーム、平和の灯などを見学しました。一つ目の原爆の子の像では、原爆は被爆した後でも被害が出ることが分かりました。二つ目の原爆ドームでは、元々あった建物の写真と比べると、壊れてしまった部分が多く、一つの原爆でもこんなにも多くの被害を出してしまうことに驚きました。あらためて、原爆投下はあってはならないものだと感じました。三つ目の平和の灯では、雨の日も一度も消えることなく、絶えず照らし続けていることに驚きました。

本川小学校では、溶けて固まってしまったガラスや分電盤などを見学しました。

ピースクリエイターでは、新聞を、平和か平和

ではないかに分けたり、ロープを使って世論をとったりして、平和とは何か、平和になるためにはどうすれば良いかなどについて学びました。



資料館では、亡くなってしまった人の多くの遺品や、原爆ドームの原爆や投下される前と後の模型、被爆した人達の絵などの様々な展示がありました。遺品を見学して、色々な物が原爆の熱によって溶けてしまったり、焦げてしまったりしていて、原爆の凄まじさを感じました。模型を見学することで、原爆ドームが何に使われていたのか、また、原爆の被害などを詳しく知ることができました。兵隊の人だけでなく、一般市民も巻き込まれていることも分かりました。

8月6日は、平和記念式典に参列しました。

戦争について、世界の人々や次の世代の人々に伝え、二度と戦争を起こさないようにするために行われている式典に参列できたことは、とても良い経験になりました。

私は、この事業に参加するまでは、自分が平和で、幸せであればよいと思っていたため、世界や周りの人々のことを考えずに生活していました。今回この事業に参加し、平和とは何かを考えていくうちに、この地球に住んでいる人が一人残らず幸せでこそ、平和であると言えると思うようになりました。

これからは、二度と戦争が起きないように、この経験を生かして、多くの人に平和の大切さ、戦争の悲惨さ、平和とはなにか、命の尊さについて理解してもらえるように伝えていきたいと思います。

広島で学んだこと

熊澤 優

平和とはということだろう。

私が、平和だと感じる時は、自分や自分の周りの人が笑顔で幸せにしている時です。この地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加をして、より広くより深く平和について学ぶことができました。

広島に行く前に私たちは、東村山市のふるさと歴史館と東大和市の旧日立航空機株式会社変電所に行き、地域の戦争の被害を初めて知りとても驚きました。ふるさと歴史館では、特にモールス信号について詳しく学びました。声ではなく機械を使って作戦命令や報告を通信していたこと、モールス信号を送っていたのが私よりも少し上の子どもが通信していたことにとてもびっくりしました。旧日立航空機株式会社変電所では、空襲で被害を受けた変電所を見学しました。ここでは実際に爆弾で穴のあいた建物を見て、私が住んでいる近くにも戦争の被害があったことを目の当たりにしてとても怖くなりました。約80年前には私と年齢があまり変わらない子供が戦争に参加し日々爆弾におびえて生活していたと思うと心が痛みました。

広島では、まず切明千枝子さんのお話を聞きました。切明さんのお話は、今ではとても想像がつかないようなお話をしていただきました。例えば、戦争に人間だけでなく、馬や犬、ハトなどの動物が戦場へ連れていかれたそうです。馬の役割は、突撃兵器として戦争に駆りだされていたり、兵隊のたくさんの荷物を運ばせていたそうです。ハトは、伝書バトとして戦地からの手紙を運んでいたそうです。原爆が落ちた8月6日、切明さんは木造倉庫のような建物に入った途端に、めくるめく閃光と共に、爆風により地面に叩きつけられ気絶し、気が付くと建物の下敷きになっていたそうです。必死に外へはって出ると大勢の人の悲鳴が聞

こえ、とても恐ろしい光景が広がっていたそうです。辛い思い出を私たちに語ってくださったのは今後、二度と同じ思いをしてほしくないという願いが込められていました。

次に心に残ったのは、原爆ドームと広島平和記念資料館です。原爆ドームでは、原爆の怖さを目の当たりにしました。たった一つの原爆でこれだけの被害がでるなんて信じられませんでした。広島平和記念資料館では、原爆のことや原爆で被害を受けた人々、建物が展示されていました。たった一つの原爆でたくさんの人々が亡くなってしまったことを実感しました。特に原爆で亡くなってしまった人々の遺品が心に残りました。未来を急に絶たれてしまった人々のことを思うととても悲しくなります。

地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加し、戦争の悲惨さや平和のことを深く知ることができました。今年は、パリオリンピックが開催されました。オリンピックの目的はスポーツを通した人間育成と世界平和だそうです。残念ながら、今現在でも戦争を行っていて、オリンピックどころではない国があります。世界の人々が安心して笑顔で暮らせるにはどうしたらいいのか、そのためには自分たちは何ができるのか考える必要があると思います。被爆国の日本だからこそ、世界中に戦争の悲惨さや原爆の怖さを伝えることがこれからの社会をつくっていく私たちの使命だと思います。



忘れてはならないこと

白井 奏音

私は2024年の夏に広島派遣事業に参加しました。戦争についての事は、ウクライナのニュースから意識を持ち始めましたが、日本の戦争の歴史の事は家族から聞く事以外、どこか別世界の事と思っていました。これまで「はだしのゲン」や「火垂るの墓」等の映画は観たことがありましたが、実際の戦争の写真や映像を見るのは初めてでした。

広島派遣前の平和学習会で、自分が住む街でも戦争によって、大きな被害があった事を知りました。いつも走っているグラウンドの横で、多くの方が犠牲になった事を初めて聞きました。自分の生まれる時代が少しでも違っていたら、自分が犠牲になっていたのかもしれないんだと考えたりしました。

今回、広島派遣事業に参加して、心に残った事、今後も伝えていかなければいけないと思った事が五つあります。

一つ目は被爆講話聴講で切明千枝子さんの話を聞き、命の尊さを知りました。79年前の記憶を思い出し、震えながら言葉にして伝えてくれた事。実際にその時代に私もいるのかと思うくらい、心が苦しくなりました。戦争の事を聞いて苦しくなるのは初めての経験でした。

二つ目は袋町小学校平和資料館で黒板に残された字を見た時に、薄い字でも残っていた文字から79年前の出来事を感じました。どんな状況でこの字を書いたんだろう？誰に何を伝えたくて、この字を書いたんだろう。この字を見て何人の方が安心出来たんだろう？など、文字にして残す事の意味、言葉の持つ力強さを感じました。

三つ目は原爆ドームです。79年前は広島産業奨励館という建物だと知りました。爆撃を受ける前の写真を見ました。かなり大きくて丈夫そうな建物でした。それが一瞬にして、今の状態まで壊れてしまったという事を実際の建物を見た事で、

原子爆弾の恐ろしさをリアルに知ることが出来ました。1つの原子爆弾で破壊できる範囲が分かる映像も観ましたが、想像出来ないくらい、広い範囲だったので、戦争の悲惨さをより深く知ることが出来ました。



四つ目は平和の灯です。実際に見るまではどういふものなのか知りませんでした。説明を聞いたら、平和の灯は世界が平和にならないと消えない灯なんだということがわかりました。出来る事なら、今すぐに消したいです！少なくとも私が大人になるまでには消したいと願う様になりました。

五つ目は平和記念式典です。日本中の人だけではなく、世界各国の人達も集まり、8時15分に全員で黙祷をしました。

広島に行く前に家族からは、式典に参加するってすごい事なんだと言われていましたが、参加をしてみて改めて、8月6日に、この広島という場所にいて、黙祷する事は本当に意味のある尊い事なんだと感じました。原子爆弾が使われたのは広島と長崎ですが、こんなに悲惨で悲しい事は79年前の日本だけであって欲しいと思います。

これからの世界平和についても考えました。戦争とは、ほんの少し考え方や向いてる方向が違うだけで、戦争になりえるんだと思いました。でもこの世界は元々、地球という1つの世界でしかないのだから、みんなが平和を望めば、戦争はなくなるものだと私は思います。なので私は、今回の広島派遣事業で学んだ事を、まずは家族に伝えて、友達に伝えて、学校の同級生にも伝えて行こうと思います。

C グループ

地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して考えたこと

永井 晴史

世界では、戦争はいまだに続いており、原子爆弾よりも威力のある核兵器も多数存在している。僕は、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して、唯一の被爆国である日本人の一人として、平和について考え、平和に向けた取り組みをしていきたいと強く感じた。

地域の平和学習では、東村山ふるさと歴史館や旧日立航空機株式会社変電所等に行き、自分の身近な場所でもB-29が墜落し、乗組員が亡くなったことや平和観音が作られた理由を知った。また、旧日立航空機株式会社変電所では、分厚いコンクリートの壁が爆撃で破壊されており、爆撃機の破壊力を身に染みて感じた。自分の身近な地域でも、戦争によって多くの人が亡くなったり、大切な人や物を奪われたことを知った。

また、広島派遣では、被爆体験者である切明千枝子さんの体験講話を聴き、広島が街が一瞬で破壊されてしまったこと、学校のグラウンドで遺体を焼いたということに大きな衝撃を受けた。また、「平和は油断していると逃げていくからしっかりと捕まえておかなければならない」という言葉が印象に残った。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、原爆投下時の広島市の街の様子、破壊された家財、放射線の影響等の資料が展示されていた。原爆の死没者を検索できる機械があり、原爆で亡くなった人一人ひとりに名前があり、その命が奪われたことを感じた。

僕は、これらの経験を通して、今まで自分が戦争や平和に対して無関心であったことを感じた。今までは、戦争は歴史的な出来事で、自分の生活からは少し離れたところにあった。しかし今は、それではいけないと強く感じている。戦争中も僕たちと同じ生活があり、命は一人に一つしかない。それらを平和によって守っていくこと、「逃げていかないようにしっかりと捕まえておくこと」の大切さを感じている。

戦争遺跡や戦争の資料をなぜ残してくれたのか、切明千枝子さんのように戦争経験をなぜ話してくださるのかについて考えた。それは、戦争や核兵

器の使用を絶対に繰り返してはならないという強い思いであると思った。広島市の平和式典での祈りは「戦争を繰り返さないこと、核兵器の廃絶」であった。広島市の被爆者の思いは、個人の辛さや悔しさを超えて、その思いの先は平和な世界の実現にあると思った。昨今のニュースで耳にする“報復”という言葉では、平和が訪れないことを被爆者は体感しているのだと思った。

僕たちは、戦争と核兵器の惨状を想像し、繰り返さないために考えていかなければならない。戦争はなぜ起こるのか、正義とは何か、核兵器がなぜあるのか、どれも難しい問いであり、今の僕には答えを出すことはできない。しかし、今回の学びを周囲に伝え、みんなで考えること、周囲に問いかけていくことができる。また、自分の言動によって相手がどのような気持ちになるのかを想像していくことも、今できる平和に向けた取り組みの1つであると思う。戦時中は、自由に発言することは許されず、戦争を反対した者が非難されたりすることもある。それも戦争が続いてしまった要因の1つであると思う。一人ひとりが平和に関心を持ち、戦争を起こさない思いを持つことで、重要な判断が周囲からの力に流されてしまうことがないようにしていかなければならない。

今回の学習で、核兵器の廃絶は難しく、困難なことであることも学んだ。しかし、戦争と核兵器の使用を絶対に繰り返さないという強い思いをもつことが大切であると思う。そして、平和について考えることを続け、身近なところからできることを探していきたいと思う。

最後に、僕は電車が好きなもので、今回の派遣事業で新幹線の窓から在来線や線路の分岐等を見ることができたこと、広島のお好み焼きが食べられたことが嬉しかった。



広島で学んだ、伝えていくことの大切さ

小座間 雅梅

広島に行く前の私は、視野が狭かったんだなあ。なんて思います。「正直言って日本だって戦争してるのだから自業自得なのに、若干被害者ぶってる?」というのが、広島に行く前の私の考えでした。広島でたくさんの方が人が傷ついて、大変なことがあって、原爆が落ちた。そんなことをうっすら知っていたくせに、そんなことを考えていました。

8月4日、被爆者体験講話を聞いて、足元がぐらり。死と隣合わせの仕事、戦争の『おかげ』で裕福になった広島。最後は勝つ神国に下級生の死体を焼く煙が立ち上ったこと。あれ?と思いました。知ってる、これ大変なことがあったってやつでしょ、と、大変なことなんかじゃ収まりきらないんだ、と気がついたとき、ぞわりとしました。深かったんです。暗すぎたんです。戦争の闇が。8月5日に原爆ドームを見て、ぎょっとしました。透き通るように青い、雲一つ無い空。風で揺れる、生い茂った緑。綺麗な景色の色とりどりのなかに、黒。真っ黒なのです。のどかな景色に、ぽつんと。写真に穴が開いているかのようでした。静かに、「本当にあったことなんだぞ」とでも言うかのように建っている、原爆の跡。写真で何度も見たことがあります。教科書にだって載っていました。なのに、これも知らない。私はまだ、上辺しか見れていなかったんだな、と感じました。実物を生で見るときに感じる、ゆったりとした静かな哀愁。いびつ。ふとそう思いました。平和の中に、あの頃が残っているような感覚がしました。

そして、広島平和記念資料館で、うまく息が吸えませんでした。佐々木禎子さんの折った、小さい折り鶴。1羽1羽、どんな気持ちで折っていたんだろうと思うと、心がぐっと重くなりました。禎子さんの友人や家族も辛かっただろうなと思い、これが現実にあったことなんだと信じられない自

分もありました。そのあと、うわっと思った画像の前で、何か静かだなと思いました。すぐに理由が分かりました。誰一人として、写真を撮っていませんでした。撮れなかった、と言った方が良いのかもしれませんが。生々しい、暗く、静かな地獄。私は、何も知らなかったんだと痛感しました。

さて、私の身のまわりは今、平和だと思います。しかし、視野を広げてみると、傷ついている人、泣いている人が沢山いる。世界はまだ平和ではありません。伝えていくことが大事なことだと広島に行き学びました。被害者面なんかじゃありません。二度とこんなことが起きないように、伝えていくだけです。誰かが、広島に行く前の私のようなことを言っていたら、私も学んできたことを伝えていきたいと思います。身近な平和を、幸せを一つ一つ大事にしながら。広島でたくさんの方のことを学ぶことができ、本当に良かったと思います。



命について

関 日花梨

私は広島に行き、命の大切さについてよく考えさせられました。命とは、一人一人に一つしかないもので、とても尊いものです。命を無意味に奪ってはいけない。傷つけてはいけない。そういう命について、とても学びました。けれど、戦争では、その尊い命を危険に脅かし、奪ってしまうものでした。

私は戦争を体験したことはありません。ですが、被爆者の方の話を聞いているだけで、ゾクッとしました。なぜかという、被爆者の方の話では、水ぶくれになり破れ、垂れ下がった皮膚が服につき、痛いからと、腕を前につきだしたり、横に開いたり、奇妙な姿で現れたと言うからです。

被爆者の方は、高校で、大火傷を負った人たちに油を塗って痛みを和らげたり、励ましたり、うちわで仰ぎ、寄ってくるハエを追っ払ったそうです。中には、声も出せないほどの大火傷を負った人もいたそうです。親や、兄弟姉妹が探しに来る前に亡くなってしまった方も、少なくはないそうです。

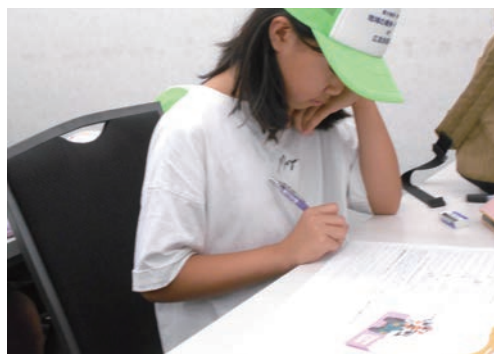
原子爆弾は、それだけ恐ろしいものなのです。それだけ愚かなものなのです。しかも、原子爆弾は、普通の爆弾の何百万倍もの爆発力があり、放射線をまき散らしながら、3000℃～4000℃の高熱で骨まで溶かしてしまう威力です。そんなに恐ろしいものをこの世からなくすため、原爆は止めよう、原爆をなくそう、と声かけをしたり、友達や家族にも伝え、皆に広め、もう戦争という大きな過ちを起こさないように努力したいです。

次に、広島で一番心に残ったことです。一番心に残ったことは、平和記念資料館です。爆発直後の想像画や、爆発直後の写真、遺品や被爆物が飾られていました。私は最後まで目を通すことができませんでした。出来るだけ目を通しました。

動く気力もない母親の胸にすがる幼児、力尽きた子ども、遺体を抱えて泣く人、子どもの名前を呼び続ける半狂乱の母親、亡くなった家族や友人を泣きながら埋める子どもや親達、悲しみにくれ、泣きじゃくる人々、その悲しみを目の当たりにし、心がズキリと痛みました。

その中でも特に印象に残っているものが、被爆三輪車です。当時、三輪車には、三才の男の子が乗っていましたが、三輪車に乗ったまま被爆し、真っ黒に焦げ、錆びて、部品が所々なくなった三輪車だけが残ったそうです。他にも、原子爆弾と大人と子どもを比べての大きさや、爆心地の様子、原子爆弾の爆発後の街並みが展示されていました。建物はボロボロに崩れ、真っ黒に焦げていました。とても頑丈なレンガやコンクリートの建物さえも、ガラガラのボロボロの真っ黒焦げでした。それだけ強力な威力を持つ原子爆弾は、この世界に存在してはいけないもので、とても怖い物だと思いました。

この広島派遣事業を通して、世界から原子爆弾が無くなることと、世界中の平和を願い、皆にも、戦争の恐ろしさ、愚かさ、無意味さ、そしてとてもいけないことだと伝え、この世から原子爆弾及び戦争を無くしたいです。この事業はとても良い経験になりました。また参加したいです。



戦争のおそろしさ

佐藤 麦

「こわい。」「気持ち悪い。」私は、広島平和記念資料館にあった、被爆して血だらけになった人達が描かれた絵を見てそう思いました。被爆した人達が着ていた服もボロボロになり、裸の人もありました。治療をしても治らない傷。私はこれを見てとても残酷で、見てると苦しくなるなと思いました。この絵は、私が見た中で、1番、心に残っている絵です。

そして、放射線による被害で、髪が抜けてしまった姉と弟という資料では、二人とも、とても悲しい顔をしていました。私の髪がすべて抜けたらと、考えただけで辛いです。それに、この二人だけが髪が抜けたということではなく、放射線をあびてしまった人達はみんな、と考えると相当な人が被害にあったんだ、ということを知りました。他にも放射線による被害はあります。ケロイドという、厚さ3cmくらいの火傷が全身にできたり大きな火傷を負うなど放射線は人間に沢山の害を与えます。原子爆弾は、1つの爆弾で、沢山の人の人生を狂わせてしまうとても悲しい爆弾です。

また、広島に着いて最初に聞きに行った被爆者、切明千枝子さんの講話は、悲しいお話で胸が痛み、とても考えさせられました。講話では、動物が戦争へ連れていかれていたことや、自分が下級生の火葬をしたことを教えてくれました。下級生を火葬するときは、とても苦しかったと言っていました。なぜなら、残酷な姿になった人を埋めて、燃やすということが辛かったからだそうです。それには、私も共感しました。どうしてかというと、血まみれになったり、大火傷を負って辛そうな友達を燃やすなんて悲しすぎるからです。千枝子さんは、沢山のことを一生懸命説明してくれました。私は戦争はもう二度と起きてほしくないと思いました。

今回、広島派遣事業に参加して、戦争のことをいろいろ考えたり、知ったり、平和とは何なのかをたくさん考えることができました。戦争とは、愚かで恐ろしく、残酷で罪も無い人の命を一瞬にして奪ってしまう最悪な争いです。これを無くすために、みんなが平和に暮らすために私は今回学んだことをたくさんの人へ伝えていきたいと思います。

最後に一緒に参加してくれたみなさん、同行してくださった市役所のみなさん、どうもありがとうございました。戦争のことを学ぶ時、暗く悲しい気持ちになることもありました。でも、みんなと一緒にあったから、明るく楽しい時間を過ごせました。また、みんなからいろいろな意見を聞くことができて自分の考えが広がりました。この事業に参加して、みなさんと出会い戦争について深く考えることができて本当に良かったです。ありがとうございました。



D グループ

戦争と平和

古川 幸佳

私は、平和学習及び広島派遣事業を通して、平和な世界にしようと言うのはとても簡単なのに、平和な世界にするのはとても難しいと思ったのと、戦争で苦しい思いをした人がいること、もう戦争なんて二度と起きないでほしいと強く願っていることがよくわかりました。そして、学習会や報告会準備などで、みんなが積極的に取り組んでいたし、みんな優しく、人と関わるのが苦手な私にも声をかけてくれて、私もそういう風になりたいと思えるようになりました。

最初の地域の戦争・平和学習では、被爆石モニュメントやふるさと歴史館を見ました。特にふるさと歴史館で聞いた平和観音や東京陸軍少年通信兵学校が印象に残っています。戦争のために勉強をして、国のために戦場に行き、たくさん学んだけど、すぐに死んでしまうことが残酷だと思いました。その後、旧日立航空機株式会社変電所も見たりしたのですが、体調を崩してしまっただけで最後までできませんでした。戦争について多くのことが学べました。次の広島派遣のとき、1日目は移動が多かったのですが、多分初めて新幹線に乗って、とても面白かったです。富士山見逃がしちゃいましたが、みんなと絵しりとりをしたりして、学習以外でもいろんなことがありました。その日は、被爆者体験講話があって、私が広島で学んだ戦争と原爆のことで1番印象に残っています。昔は軍の都だった広島、元は戦争で栄えたけど、原爆が落とされて一瞬で焼け野原になったことはまったく知りませんでした。原爆で死ぬのもつらいし、生き残ったとしてもずっと苦しい思いで生きていかなければいけなかった被爆者の方のお話や、話を聞いてとったメモなどを思い出したり、見返したりすると、自分が今まで嫌だったことやちょっとケガしたりしたときの痛みが、すぐ

くちっぽけなことだなと今でも思うくらい、原爆は人々の幸せを奪ってしまうと思いました。

広島2日目は資料館を見ることが多かったです。特に印象に残っているのは広島平和記念資料館です。原爆のこと以外にも、亡くなった子どもたちの最後の言葉や、戦争中の暮らしなどがあって、知らないことがたくさん知れたのと、戦争はあってはいけないものだと思えました。そして最後の3日目は、8月6日の原爆の落とされた時間に追悼する平和記念式典に参加しました。すごく人がいたのですが、驚いたところは、外国人がとても多かったことです。いろんな国が参加されているのは知っていたのですが、ここまで多いとは思いませんでした。私はこども代表の言葉がとても印象に残っています。私より小さい子がたくさんの方の前で、大きな声でしゃべっていて、内容もすごく心に響きました。報告会のときに私もこんな風にしゃべりたいと思いました。そして報告会では1人お休みになってしまいましたが、戦争の恐ろしさと、平和の大切さを伝えることができたと思います。もっと平和のことや、戦争でこんなことがあったということを世界中の人々が知って、どんどん次の世代に語り継いでいって、この残酷だった戦争と原爆のことを忘れないでほしいです。



生きる権利 大切な「いのち」

唐沢 怜

私は、東大和市・東村山市が主催する、広島派遣事業に参加しました。私は、この広島派遣で学んだことを活かして、平和のためにしていきたいことがあります。それは、広島悲劇を忘れず、これからも意識してそれを知り、戦争の恐ろしさを後世に伝える、ということです。

私は、広島を訪れる前、広島や長崎では恐ろしいことがあった、ということは知っていましたが、その時はまだ疑心暗鬼でした。しかし、広島平和記念資料館の「被爆の実相」という展示場所で、人々が大火傷を負って水を求める写真や、ひどい火傷を負った人々を、なんとか手当てをしている人の映像があり、とても恐ろしく、それはまさしく「地獄」でした。ここでやっと、原爆の本当の恐ろしさが分かった気がしました。

私はその後、思ったことがあります。

広島と長崎に原子爆弾が落とされたのち、終戦を迎えましたが、それ以外の方法で、戦争を終わらせることができなかったのですか？

話し合いで戦争を終わらせることはできなかったのでしょうか。なぜもっと早く戦争を終わりにしようと、声を上げることができなかったのでしょうか。そうすれば多くの人々が命を落とすことはなかったのに。

広島で穏やかに暮らす人々の夢や未来が、ほんの一瞬で失われました。

人々の生きる権利、自由が、原爆という恐ろしい兵器によって、身勝手に一瞬で奪われたのです。そして今、広島の人々は勇気をもって、戦争を知らない私たち、幸せが当たり前にある、そしてそれが何も特別ではない幸せな暮らしをしている私たちに、語り継ぐ努力を続けておられます。

こうして広島を訪れ、戦争の恐ろしさを知った私たちが、悔しくも命を落としたたくさんの方々、

私たちと同じ小学生や中学生、そして世界中の人々の尊い未来と、平等に生きる権利のために、核兵器を無くしていく努力をすることが、大切なのだと思うのです。

平和のために、これから私がしていきたいことは、周りの人に、この思いを語り掛け続けていくことです。

今日も明日もまた、広島を訪れる諸外国の方々、核を持つ国で暮らす友達が、同じ思いを抱き、傍にいたり家族に語り伝えて欲しいと思います。そしていつか世界から核兵器を無くせる日が来るように、祈っています。



広島派遣・平和学習で学んだこと

濱野 希

今回参加した広島派遣事業や事前学習会では、平和記念式典への参加や被爆者体験講話など様々な貴重な体験ができました。ただ、最も多く学習できたのは、資料館で資料や展示品を見ることだったと思います。

資料を見ていてまず共通していると思ったことは、どんな資料であっても独特な重い雰囲気をもっていることです。初めのうちはこの独特な雰囲気が何か分かりませんでした。ただ、多くの資料や残酷な展示品を見たうえでやっと理解できました。資料がもっていた重い雰囲気は、多くの人の強い悲しみと、原爆という過ちの愚かさだったのだと思います。

ただ、それは理解しようと思わなければ理解できません。ただ何となく資料を見ているだけでは深い学びは得ることはできません。私は、この考えは今回の平和学習すべてにおいて、もしくはそれ以外でも言えると思います。原爆の歴史について理解しよう、広島の人々の気持ちを理解しようと思う、そんな考え方が大切なのだ改めて知り、学べました。

例えば、地域の戦争・平和学習会です。私は東大和市に住んでいるので、東大和市の南公園にある旧日立航空機株式会社変電所の存在と、どのようなものかはある程度知っていました。しかし学習会で実際にスタッフの方から説明を受けたり、東大和市だけでなく東村山市の資料館で学んできたりすると、いかに今までの自分の地域の戦争に対する知識、考えが浅いものであったかが分かりました。実際に説明を聞くと、私が思っていた何百倍もの情報や痛ましい事実があったのだと分かり、自分が住む所なのにここまで知らないことがあったのだと恐ろしくなりました。

広島派遣では、人生で初めて広島に行き、今ま

ではテレビでしか見ることはできなかったような、式典や体験講話といった貴重な体験ができました。まずは資料館や体験講話などで、原爆についてより生々しく学びました。そこでは、原爆がいかに恐ろしい過ちであるか、今の生活がどれだけ幸せなものだったのかが心に刻みつけられ、理解しようと思えば思うほど心が痛くなりました。

これらの体験は、きちんと理解をしようという意欲があったからこそのことなのだと思います。平和学習会で新しく感じた恐ろしい気持ちも、広島、現地に行って得たたくさんの学びもそれがあってこそのことでした。これだけでなく、他にももっと調べればもっともっと分かることがあるはずです。私がこれから歩みたい平和への第一歩は、まず過去のことについて知る意欲を持ち、理解することです。さらに、日常生活でも相手の気持ちを考え、分かろうとできるように改めて気をつけようと思います。



地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業で学んだこと

永井 敦也

僕は、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して、平和に対するイメージが大きく変わりました。今まで当たり前だと思っていた食べ物があること、安心して眠れる日常は当たり前ではなく、命までもが奪われてしまう恐ろしい戦争が、わずか80年ほど前に日本で起こっていたことをあらためて感じました。

7月の下旬の地域の戦争学習では、身近な地域で起きた戦争のことについて深く触れることができました。ふるさと歴史館や旧変電所の学習では、B-29が墜落して乗組員11人が亡くなったということ、平和観音が作られた理由、少年通信兵学校が行われていたことなどがわかりました。旧日立航空機株式会社変電所の壁は分厚いコンクリートで出来ていましたが、爆撃機により大きな弾痕が無数にあり爆撃機の恐ろしさが身に染みてわかりました。僕は、身近な地域でのこのような戦争を伝える「戦争遺跡」が多くあることを知り、また自分自身がそれらに気がついていなかったことを感じました。戦争について自分から知ろうとすることが大切であると思いました。

広島での派遣で印象に残っていることは、切明千枝子さんの戦争体験講話です。戦争体験講話では、今まで知らなかった戦争のことについて知ることができました。戦争では人以外にも猫や犬、馬などが戦争に使われていたということがわかりました。罪のない動物までもが戦争で使われていたということに、とても悲しく思いました。また、戦争が激しくなったときの広島では学童疎開ということがありました。また、袋町小学校平和資料館には児童を探したと思われる先生や両親などが壁や黒板に書いたと思われる文章がありました。僕は、これらの経験から、今まであまりイメージがつかなかった戦争がどのようなものであったのかを学び、罪のない大切な人やものを奪ったことを強く感じるようになりました。原爆はそこで暮らす人たちの日常生活を一瞬で奪いましたが、生まれた

場所や時代によって、命が奪われるようなことがあってはいけないと思います。切明さんがとてもつらい経験を話してくださったのは、僕たちに戦争を二度と起こしてはならないという強い思いを伝えてくださったのだと思います。僕は、講話を聞いた一人として、平和をつくるために自分自身ができることを考え、行動していきたいと思います。

また、原爆の子の像が印象に残りました。原爆の子の像とは2歳で被爆した少女、佐々木貞子さんをモチーフにした石像です。佐々木貞子さんは、2才で被爆し奇跡的に生き残ったものの、放射性降下物に触れ、12才の時に白血病と診断されて入院しました。千羽鶴を折り、元気になれることを願いましたが、12才で亡くなりました。原爆による影響が原爆の爆発以外にもあったということもわかりました。原爆によって、多くの人が病気になったことを知り、生きたくても生きることができなかった人がたくさんいたことを感じました。

地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して、戦争を二度と起こしてはいけないと思いました。しかし、まだ世界では戦争が起きています。今回の学習で、今までに知らなかった戦争のことや平和を作るために大切なことを学びました。地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加した経験を周りにも伝え、平和のために自分ができることをしていきたいと思います。



広島派遣で学んだこと

原田 璃央

今回の広島派遣は、僕のこの夏のメインイベントだ!!だから絶対体調を崩したくなかったので、お母さんが体を強くするためのサプリメントを何種類か買ってきて、それを飲んだり、毎日栄養のある食事をとったりして体調を整えて広島に行くために用心深く体調管理をしっかりとした。広島では暑くて気が動転しそうだった。

印象に残ったことは、広島平和記念資料館のことだ。中にいざ入って絵や写真、動画を見たらものすごく心が痛んだ。上空560mで原子爆弾が作裂して、一瞬にして広島全体が火の海になっていた。火傷を負って生き残ったとしても、放射線をあびて白血病で亡くなったり、ケロイドで肌が膨れあがったりしていた。薪を組んで死体を焼いて骨を土の中に埋めたり、また、水を求めて川や井戸の中に入っても、原子爆弾の熱で水が沸騰するくらい熱い川の中に入り、もがき苦しみながら死亡してしまった人の写真などを見て、泣きそうになったし吐き気までした。

袋町小学校平和資料館では、階段の壁にチョークで人の安否を書き表していた。被爆者の方から実際にお話を聞いたときには、僕は、その光景が想像できてしまうくらい衝撃的でものすごく悲しい気持ちでいっぱいになった。聞いた話で一番印象に残ったことは、「広島市の街のほとんどの地面には、骨があるから一步一步上を通らせていただきます、と思って歩いてください。」という言葉だった。

帰って来てからは、広島で撮った写真250枚をお母さん、お父さん、おばあちゃんに一枚一枚こと細かく説明してあげた。そしたら「すごいね～、こんなに細かく説明できて偉かったね!!」と言われて、とても嬉しかった。その後も報告会の準備に一日費やしたり、みんなでリハーサルを



したり、一つのことにこんなに一生懸命になったのは、初めてだったかもしれない。この作文を書きながら改めて広島での経験を思い出して、この夏、僕はきっと一生忘れない素晴らしい思い出になった。

7

参加者アンケート

アンケートの目的

「平和」や「地域の戦争」、「広島」について、それぞれの考えがどのように変化するかを知るために、参加者 19 人に事業の実施前と実施後にアンケート調査を行いました。

※回答者数は、複数回答したかたがいるため、合計が参加者数と一致していない場合があります。

アンケートの結果

実施前 本事業に参加を決めた理由 (単位: 人)

平和学習をしたいから	8
広島に行きたいから	3
親に薦められたから	5
友人に誘われたから	2
その他	1

●平和学習を通して戦争の悲惨さを学びたいから。

実施前 広島派遣事業で最も興味がある内容は何ですか (単位: 人)

広島被爆者体験講話聴講	3
広島平和記念公園の式典	3
袋町小学校平和資料館	1
本川小学校平和資料館	0
原爆ドーム	8
広島平和記念資料館	2
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	2
原爆の子の像	1
その他	0

実施後 広島派遣事業で最も興味深かった内容は何ですか (単位: 人)

広島被爆者体験講話聴講	6
広島平和記念公園の式典	1
袋町小学校平和資料館	1
本川小学校平和資料館	0
原爆ドーム	3
広島平和記念資料館	9
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	1
原爆の子の像	1
その他	1

●平和の力



広島派遣事業で最も興味がある内容について、実施前は、よく知られている「原爆ドーム」が最も多くの回答を得ましたが、実施後は、被爆者の遺品など、被爆の惨状を示す写真や資料が展示されていた「広島平和記念資料館」が最多の回答でした。また、次に多かったのは、「広島被爆者体験講話聴講」で、被爆者から直接語られる被爆体験や平和への思いが子どもたちの心に強く響いたことがうかがえます。

実施前 自分たちが住んでいる身近な地域での戦争について、知っていることは何ですか

第二次世界大戦で銃で攻撃されてボロボロに崩れたり、穴があいてしまっている変電所が残っていることです。

ロシア・ウクライナ戦争
パレスチナ・イスラエル戦争
第二次世界大戦（原爆）

軍事工場がたくさんあった。
空襲が多かった。

秋津の方にアメリカ軍の人たちのお墓がある。
久米川古戦場跡がある。
陸軍少年通信兵学校の名前だけ聞いたことがある（どんなものかは分からない）。

東大和市南公園にある変電所です。いつ撃たれたのかは不明ですが、弾丸が壁を貫通していたところを発見しました。

旧日立航空機株式会社変電所（この穴は昭和20年（1945年）：爆弾などの破片による穴です。）昭和20年（1945年）2月17日、4月19日、4月24日、3回の攻撃で周辺の住民など100人を超える方が亡くなりました。（工場の8割方壊滅した）

東村山市に戦争の遺跡があること。

戦災建造物
旧日立航空機株式会社変電所が東大和南公園にあります。

南公園にある変電所が戦争によって被爆して、奇跡的に残った建物であること。（戦争があったことを忘れないために残されたもの。）戦争中どんな生活をしていたか。戦争でたくさんの人が亡くなり、たくさんの建物が消えたこと。

東大和の南公園にある「旧日立航空機株式会社変電所」
・外に残ってる弾の跡が痛々しい印象
・1F→戦時中やその他の資料
・2F→当時の機械や、使われていた布団がある。
・その他、軍需工場へ送電する変電施設→被災しつつも1993年まで変電所として使用された。今は、南公園の文化財、東大和市の史跡として東大和市が管理してる。

変電所
東大和は比較的安全で、逃げて来る人を受け入れていた。

飛行機工場が近かったので、よくアメリカ軍の飛行機が空襲してきた。
東村山市にB29が墜落してきた。

旧日立航空機株式会社変電所→戦争を伝えるために変電所を公開している

東京大空襲

東村山市の空襲、疎開

東京大空襲

空爆変電所

変電所がある。

分かりません。

実施後 地域の戦争・平和学習会に参加し、身近な地域での戦争について実際に学び、どのように感じましたか

戦争で代表的な広島、長崎などしか知らなかったけど身近なところにも戦争について物語っているものがありとても関心しました。

分厚いコンクリートの壁が突き抜けるほどの威力をもった飛行機の銃跡があった。
働いていた人は防空壕で窒息死した。

この地域の人たちも辛い思いをしていてとても可哀想でした。

自分が住む街でも戦争によって大きな被害があったことを初めて知りました。いつもマラソンの練習をしていたグラウンドの横で多くの方が犠牲になったことを知り、自分の生まれる時が少しでも違っていたら自分が犠牲になっていたのかもしれないんだと考えたら怖くなりました。

今ではありえないことを昔はしていたことを知って、昔はこんなことも戦争のためにしていたんだと感じた。

広島だけでなく、東村山市や東大和市などでも戦争があったことが分かりました。

東大和市にある変電所に行って、私達が住んでいる街でも大きな被害があったことが分かりました。また今までは、戦争を身近なものとして考えていなかったけど、今回実際に学んでみて、今私が住んでいる東村山市でも戦争が起きていたことを実感することが出来ました。

無くなってしまったら大きな影響があるところを狙って空襲をおこしている。

私たちが住む東大和市、東村山市でも起こっていた戦争について知り、こんな身近な所でも凄まじい戦争があったのだと怖くなった。もっと調べれば、おそらくもっと情報が出てくると思う。私たちが知らないだけで、戦争の被害はもっと、倍以上あるのだと思う。

昔は、家のすぐ近くで戦争がおきていたと知ってびっくりしました。

東村山市には、被爆石があり、少しでも身近に感じました。東大和市では、3回も空襲があって、その証拠の建物が、今でも残っていることに驚きました。

広島と長崎の原爆が戦争で起こった大きなことで、戦争といえば原爆というイメージがありましたが、こんな身近なところでも戦争の跡があるんだと思いました。

明日が来る事や、当たり前の日常に感謝しようと思いました。自分が思っている悲惨な事ばかりでとても悲しくなりました。

広島や長崎という遠い県でなくても、身近な地域でも戦争はおこり、何万人という人が亡くなってしまったと聞き、とても驚き、心が痛みました。

戦争の恐ろしさを感じた。資料を見て全身に震えが走った。

B29の墜落の歴史は知らなかったのが驚いた。戦前から東大和の変電所の周辺には他にも工場がいっぱいあったことを知った。

旧日立航空機株式会社変電所が身近にある戦争の跡だということは知っていたけれど、被爆石モニュメントや平和観音については知らなかったの、こんなにたくさんあることに驚きました。

自分たちの住んでいる、身近な地域でも戦争があったことに驚きました。

今まで知らなかった戦争のことにについて知れた。

実施前 広島と聞いて思い浮かぶイメージは何ですか

原爆が落とされたところ	原爆ドーム・お好み焼き	お好み焼き（広島焼き）・原爆ドーム・広島カープ・厳島神社・宮島・かき・もみじまんじゅう・鹿・レモン・平和記念公園	原爆ドーム・戦争
原爆があった・お好み焼き	広島カープ・原爆ドーム・お好み焼き かき	道徳の授業ででてきた、ずっと折りづる折っていた病気の子	はだしのゲン・最初に原爆を落とされた場所・お好み焼き
原爆ドーム・もみじまんじゅう・お好み焼き	原爆ドーム・さだこさん・平清盛・厳島神社・G7 広島サミット	原子爆弾が落ちてたくさんの人が死んでしまったイメージ・レモンが有名なイメージ	
厳島神社・もみじまんじゅう	国鉄広島・山陽新幹線全列車停車・原爆ドーム・平和記念式典	原爆ドーム・原爆・もみじまんじゅう・黙とう・原爆の子の像	1945年8月6日に原爆が投下されたことが思い浮かびます。
アメリカ軍に原子爆弾を投下された原爆ドームがあり、原子爆弾によって多くの人が亡くなってしまった。 厳島神社・かき・広島桜鯛・瀬戸内式気候		戦争・世界で初めて核兵器による攻撃を受けたところ。 ・原爆ドームがある。→ユネスコの世界遺産（負の遺産） ・1945年8月6日、原子爆弾（リトルボーイ）により被爆→56万人もの被爆者 ご当地グルメがたくさん 広島お好み焼・カキ・もみじまんじゅう 観光スポットも充実 ・厳島神社（宮島）・日本三景・世界遺産 ・平家の守護神	
原爆の被災地の1つ・もみじまんじゅう・お好み焼き・かき料理・あなごめし			
原爆ドーム・戦争・もみじまんじゅう・宮島・レモン・かき・広島風お好み焼き			



実施後 実際に広島に行った後、広島についてどのように感じましたか

原爆の被害が思っているよりも遠い地域にもあったことを知って、地獄みたいな場所と感じました。	グルメ、観光名所がたくさんある。ただ戦争、原爆の被害を受けた県、だけではない。実際そこから復興も進み、なにより街の雰囲気も明るかった。原爆を経て、さらに良りよい、明るい街になったと思う。本当に明るい街だった。	広島はグルメと原爆の街だと思っていたが、戦争の被害を空気で感じる街でした。	
今の広島は、平和に最も力を入れている県ですが、昔は、「軍都広島」と呼ばれていたことを知り、広島のイメージが変わりました。広島平和記念資料館や広島被爆者体験講話などリアルにふれて、背筋がぞっとしました。自分がもしその場にいたら、生き延びていただろうかと思いました。	原子爆弾が落とされるまでは、広島は軍都広島と呼ばれていたことを聞き、驚きました。	思っていた戦争の残酷さ、恐ろしさを超えていてびっくりした。	
	今はきれいだけど原爆が落とされた後すぐは広島中に死体が落ちていた。	原爆は地面で爆発したのだと思っていたけど、実際は600メートル上空で炸裂したし、10日後も放射能の影響が変わらなかったと知って驚いた。	原爆についてや戦争について深く関心を持った県なことが分かりました。過去にあったことを忘れないような工夫をしていると思いました。
原爆が落とされて、たくさんの人や建物が犠牲になってしまったけど、今では復興していてスゴイと思いました。	原爆が落ちた場所。戦争のことを広げようとしている。	この事業に参加する前の広島のイメージは戦争があったんだと思うだけでしたがこの事業に参加した後のイメージは広島には原爆もあり数えきれないほどの死亡者のかたたちがいることを知りとても心が痛みました。	
原子爆弾という過ちを乗り越え、街を直し、笑顔を取り戻した広島はとてもすごい。	最初は広島は原爆が落ちる前、あまり栄えていなかったところかと思ってましたが、戦争中のときにすごく栄えていて重要な場所だったことを知って、すごく広島印象がガラッと変わりました。	広島に行く前は、「日本からケンカふっかけてたくせに自業自得では?」「なんで日本って被害者ぶってんだろ?」なんて浅はかなことを考えていたけれど、広島に行っからは、「被害者ぶってる」のでは無いんだと学びました。もうこんなことがおきないように、全部さらけだそうとしていて、世界に向かって叫んでいるんだと分かりました。広島に行くことができて本当に良かったです。	
行く前は、広島とは?と言われると原爆ドーム(戦争について)しかでなかったけど広島は戦争で悲しんだ人々がたくさんいることも知って、戦争は恐ろしいと感じました。	原爆はもう二度と落としてはいけないと感じました。	普通の都市に比べ、公園や平和に関する施設、資料館が多い。	



実施前 平和とは何だと思いますか

みんながみんな戦争や争いをしない。 落ち着いて安心して生きれること。	戦争のない暮らし。 武器や爆弾などをもたないこと。	争いが起こらない こと。	皆が笑顔で過ごせること。 戦争がないこと。
争いがなく、皆で仲良くできていること。差別がなく、 お互いに違いを認め合える。皆が笑顔で楽しく過ごせる ということ。	みんな幸せにくらせること。自由。戦争が ない。	争いや戦争がないこ と。不公平にならない よう皆が平等であるこ と。世界中の皆が仲良 くすること。	
平和とは ・私の考え 世界中の全員が、心身共に健康であり自分らしい生活 を送れるような、笑顔のあふれるような状態のこと？ ・Wikipedia 平和(へいわ、英: peace)は、戦争や暴力で社会が 乱れていない状態のこと→「争いが無くなるだけ」で 人々は幸せになれるのだろうか？	みんなが笑顔で楽しいと思えること。	戦争がない。 ご飯が食べられる。 家族と過ごせる。	
	平和とは、戦争やつらいことがなく、 世界の人々が毎日笑顔でいられること。	皆が平等で安心して生 きられる世界。	
	幸せで平等。戦争が起こらない。 けんかをしない。		
	人々が自由に暮らして協力して、何も争い を生まないこと。		
争いや戦争が ないこと。	争いが無い。安心し て生きられる。	安心して暮らせる。 争いが無い。	秩序。宗教的なこと？ SDGs。
			日常生活が送れること。



実施後 平和とは何だと思いますか

人々が笑顔になれるような状態だと思う。戦 争がなかったら果たして平和といえるのか？ と思うと、なかなか首を縦に振りづらい。本 当の平和はもっと複雑で、一人一人の考える 平和によりそえるような状態で、人々が笑顔 になればそれはそれで平和だと思う。	平和とは、争いや揉めことが ないこと。	すべての人が安心 して暮らせる。	誰もが辛い思いをせず にいられること。
	犯罪がないこと。けんかがな いこと。	楽しいって思う人 が増えること。	みんなが安全に平等に 暮らせる社会。
戦争や原爆がないことは当然だけど、それだ けではなく、いじめやパワハラなどもなく、 どんな人も平等に生きれること。	みんなが、幸せに暮らすこと。 戦争が無くなること。	戦争がないことだけではなく、いじめ や人まかせなど、身近にある嫌なこと がないことを平和といえるのかな？と 思いました。	
人々が安心して暮らせる世界。 争いが無い世界。 キレイな空気、整った衣食住環境で暮らせる こと。	みんなが戦争はしてはいけないこと、 争いはダメなことだって理解し、核 兵器を一切使わず、みんなが差別な く幸せだ、と思えること。	地球に住んでいる人々がみんな笑顔で 暮らせることだと思います。楽しい、 幸せと思えること。	
安心できることだと思います。空襲警報に怯 えないでぐっすり眠れることとか。家族と離 ればなれになって戦死しないで、家族と一緒 に美味しいご飯たらふく食べられることとか。 戦争には、安心して無いよなあと思いました。 なので、平和＝安心だと思いました。	みんなが笑顔になれることだと思 う。戦争やいじめがないことだと思 う。自分にとって大切な人がいるこ と、世界中の人、全ての人が平等に 幸せになれることだと思う。	平和とは、みんなが幸せであることだ と思います。	
	辛いこと悲しいこと戦争がないことな ど、マイナスなことがまったくない世 界のことだと僕は思います。	戦争が無く、皆が笑顔で、いじめもな い世界です。	もともと、世界は一つなんだから、み んながよくなることを考えられたな ら、それが平和だと思います。

実施前は、平和とは「争いや戦争がないこと」といった意見が多くありました。実施後は「すべての人が幸せであること」「安心して暮らせること」といったように、争いが無いだけでは平和とは言えず、誰もが平等に幸せに暮らすことのできる社会が、平和な社会であると考えようになり、平和の概念がより広がりました。

実施前 本事業で何を学び、何を得たいですか (単位: 人)

戦争の悲惨さ	16
命の大切さ	13
平和を守ることの重要性	16
自分の目で見えて感じることの重要性	9
同世代の参加者との意見交換による気づき	7
平和学習に参加して感じたことを作文にまとめる力	6
その他	2

- 戦争を後世に伝えるための知識。
- 実際、自分の目で見えて感じたことや思ったことを参加者の人と意見交換し、考えを深める。

※この設問は複数回答可であるため、合計が参加者数と一致していません。

実施前 事業に対する意見など

今、あたり前に生きていることや平和のことについて改めて考え直し、これからの事業でいろんなことを学びたいです。

平和について 国際関係における平和とは? → 「戦争が発生していない状態」だろう。
戦争→宣戦布告から始まり、講和条約で終わる。これで平和が来る。
また、国際連合憲章の下では安保理事会の決定に基づくもの以外での武力行使は禁止。
↓
ただ宣戦布告×休戦協定破るといったこと。人民の平和は保障されきらないなど。平和と人の安全保障の両立が嫌だ。

実施後 本事業で何を学び、何を得ましたか

学んだこと: 戦争の全容、戦時中のこと、原爆について、戦争は何も生まないこと。
得たこと: ちゃんと生きる考えを得ました。様々な資料を見た後だと、自殺することが馬鹿らしく思えて来たので、何かな限りちゃんと生きようと思いました。

平和の難しさを学びました。うつろいながら戦争がひょっこりこっちに出来ることも学びました。そして、忘れられない思い出を得ました。楽しかったことも、悲しかったことも、良い思い出です。良!!

戦争の恐ろしさや命の尊さを学びました。そして、戦争は絶対にやってはいけないということを知りました。原爆によって、みんなの幸せを壊し、多くの人が長い間苦しみを続けたことを学ぶことができました。

79年前に広島で起きた原爆のことを学びました。戦争が何か? 平和が何かを学びました。なので、自分が置かれている状況が、どんなに幸せなのかを感じたり、平和について考える時間を得ました。

何も不便なく生活できていることに感謝を持つことができた。
戦争というのは大きな被害をもたらすことを学び、戦争をしてはいけないことを次の世代に伝える思い。

広島へ落とされた原爆、たった1つ落とされただけで、14万人もの人が亡くなり、生き残った人でも、黒い雨をあびたり、ケロイドになったり、爆弾1つでこんなに大きな被害があるということを知った。

平和を考えること。平和が逃げていかに守られていること。今、安心して暮らしていることのありがたさ。

命の大切さを学びました。命は一回亡くなったら終わりだから、生きているうちに、大切にしなければならぬものだということを得ました。

この広島派遣事業では、平和の尊さと戦争の恐ろしさについて学ぶことができました。

戦争の残酷さが分かった。なんの罪もない多くの人々が、亡くなった。自分は、争いをしないために認め合おうと思いました。

原爆の恐ろしさを知り、放射線の体への影響が分かった。

実際に原爆を投下された広島に行き、平和の大切さと命の尊さについて学ぶことができ、とても良い経験となりました。

この事業で戦争がどれだけ残酷か、どれだけしてはならないのかということを知り、戦争は二度と起こさないという固い心を得ました。

人の大切さや戦争の恐ろしさ。

広島へのイメージの変化を学んで、戦争のイメージを得た。→思った数倍よりも明るい街で、戦争を負った痛ましい街というイメージが崩れ去った。

原子爆弾は自分が思っていたよりずっと恐ろしいものだったことを学んだ。
被爆者の切明千枝子さんの想いが心にずっと残っている。

本事業で戦争の悲惨さと戦争を経験した人の平和への強い思いを学び、世界で起きている戦争を今すぐに無くしてほしいという思いを得ました。

戦争の悲惨さを学び当時のことを知ることができた。

平和をつくることの大切さ。
平和をつくるために必要なこと。

本事業の実施前に「戦争の悲惨さ」「命の大切さ」「平和を守ることの重要性」を学びたいという意見が多数ありましたが、実際に現地を訪れ、目で見えて聞いて感じることで「平和の大切さ」と「命の尊さ」について実感することができたようです。また安心して暮らすことができる今ある日常への感謝の気持ち、戦争の悲惨さを次の世代に伝えていくことの大切さについても考えることができました。

実施後 本事業に参加してみて、満足度を教えてください。(単位:人)

満足している	18
少し満足している	1
少し不満である	0
不満である	0



実施後 本事業に参加した感想

本当に得たものが多かった。やはり現地に行くというのは大切なことで、百聞は一見にしかずということわざを思い知った。

広島に行く前は戦争のことなんて知らなかったけど、広島に行き、初めてその怖さを知りました。この経験を生かし、皆に伝えていきたいです。

命や平和の大切さが分かった。

平和の大切さや、戦争の悲惨さを考えられた。

切明さんがとても詳しく説明してくれたので当時のことや、被爆者の気持ちがよく分かった。

この事業に参加して思ったこと(感想)は、戦争のことについてものすごく学べてとてもいい経験をしたなと思っています。

原爆による被害、被爆後の人々の生活、広島島の街並みを比較することができて良かったです。また、被爆者の方のお話や、原爆ドームなどに行ける、貴重な体験をすることができて、とても楽しかったです。

あまり興味のなかった私にここまでいろいろ考えさせるきっかけを与えてくれたことにとても感謝しています。

戦争についてたくさん学べて、よかった。資料の恐ろしさ、残酷さが今でも信じがたく、資料館がとても怖かった。

私、人と関わるのが苦手な感じで、この事業に応募した後ずっと不安でしたが、みんな優しくてなじめて良かったです。結構自分らしくいられたかなと思っています。広島で勉強できてとても楽しかったです。

楽しかったこともあった。初めて逢った友達と戦争について一緒に学べて仲良くなって、みんなで楽しいことも話したりして、写真も撮ったりしたことが良い思い出。

平和とは何かを考え、平和の大切さについて学ぶことができました。また、同じ目的を持った参加者と友達となり、共に考え、過ごすことができて楽しかったです。とても良い経験となりました。ありがとうございました。

戦争や平和のことを深く学び、日本が大切に行っていることが分かりました。ほかではできない体験をしたので、学んだことを違う形で将来に役立てないと思いました。

広島平和記念資料館に展示されている資料の数々を見て、少し身近に感じたというか、ほんの少し、その場にいたような気がした。戦争は、本当にしてはいけないこと、人々が苦しむだけだと思った。

楽しかった!行く前は少し不安でしたが、それを塗り変えるくらい楽しかったです。行って良かった!!!

他の地域の人たちとも仲良くなれたし、戦争の恐ろしさも目の当たりにして、すごく当時の広島は悲惨だったことがわかりました。

東大和市、東村山市に友達が出来てよかったです。

最初は不安でしたが、新しいお友達もでき、一緒に学ぶことができとても良かったです。

しっかり学べたし、すごく楽しかった!一石二鳥!

実施後 今後、戦争・平和学習として実施してほしい事業、訪問してみたい場所など

長崎での平和学習を実施してほしいです。

もう1つの原爆投下場所である長崎に訪問したいと思いました。

沖縄などの戦争。遠い所ではなにがあったの?

長崎派遣事業を実施してほしいです。

厳島神社行きたかったです。

知覧特攻平和会館(鹿児島)

長崎

東大和で被爆した人の話を聴きたい。

いままで充分でした。

原爆の被害にあった人がいた病院などがあったら行ってみたいです。

長崎からハワイのパールハーバーから硫黄島に訪問してもっともっと戦争について学びたいです。

長崎や沖縄にもできたら訪問してみたいです。もっと参加できる人数を増やしている人々と意見を交流できたらいいなと思いました。

○体験参加経験のあるOB・OG 青年団の引率支援ボランティア
○成年になっても平和活動に意識を継続することができ社会活動に役立つ
○他の場所にある戦争の跡の見学や平和についての博物館などに行く
◀派遣事業を振り返って▶
○灯籠流しがしたかった
○式典で岸田総理が献花していたところで自分もお祈りがしたかった
○暑さ対策やお水の量もあって楽しく過ごせたけど、水を飲むのが苦手なのでスポーツドリンクの方が飲みやすいと思った

東大和市平和都市宣言

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。

世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

平成2年10月1日

宣言

東村山市核兵器廃絶平和都市宣言

地球上には、全ての生命と文明を一瞬にして滅亡させてなお余りある核兵器が存在し、人々はその脅威にさらされている。

世界唯一の核被爆体験を持つ国民として、いかなる地域においても、再び広島・長崎のあの惨禍を繰り返してはならない。我々市民は、核兵器がいかに悲惨なものであるかを、全世界に強く訴えるものである。

東村山市は、瞬時に自然を破壊し、人類の滅亡をもたらす核兵器の廃絶と、人類永遠の平和の願いをこめて、「核兵器廃絶平和都市」であることをここに宣言する。

昭和62年9月25日

東京都 東村山市

**令和6年度
東大和市・東村山市
地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業 報告書**

令和6年12月 発行

編集・発行

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

・東大和市教育部生涯学習課

東京都東大和市中央 3-930

電話 042-563-2111（代表）

・東村山市市民部市民相談・交流課

東京都東村山市本町 1-2-3

電話 042-393-5111（代表）

